

芦屋町高齢者福祉に関する  
アンケート調査結果報告書

令和2年7月  
福岡県芦屋町



# 目 次

## I 調査概要

1. 調査目的	3
2. 調査概要	3
(1) 調査対象者	3
(2) 調査方法	3
(3) 調査時期	3
3. 回収状況	3
4. 報告書利用上の注意	3

## II 調査結果

1. 回答者の属性	7
2. 日常生活の様子について	9
3. 健康・介護予防について	12
4. 社会参加・生きがいについて	17
5. 就労について	26
6. 認知症について	30
7. 成年後見制度の利用促進について	33
8. 安全・安心な暮らしについて	35
9. 介護について	38
10. 高齢社会対策への総合的な取り組み等について	43

## III 調査結果から見る現状と課題

1. 回答者の属性	47
2. 日常生活の様子について	47
3. 健康・介護予防について	47
4. 社会参加・生きがいについて	48
5. 就労について	48
6. 認知症について	49
7. 成年後見制度の利用促進について	49
8. 安全・安心な暮らしについて	49
9. 介護について	50
10. 高齢社会対策への総合的な取り組み等について	50



# I 調查概要



## 1. 調査目的

本調査は、「第8期芦屋町高齢者福祉計画」を策定するにあたり、健康や福祉に関する高齢者の現状や意識などを把握し、今後の高齢者福祉施策を展開するための基礎資料とするものです。

## 2. 調査概要

- (1) 調査対象者 芦屋町にお住いの65歳以上の方の中から1,500人を無作為抽出  
(※住民基本台帳令和2年1月1日現在)
- (2) 調査方法 郵送による配布、回収調査
- (3) 調査期間 令和2年3月13日～27日

## 3. 回収状況

調査対象者数	回収数	回収率
1,500	794	52.9%

## 4. 報告書利用上の注意

- 端数処理の関係上、構成比(%)の計が100%とならないことがあります。
- 図表の構成比(%)は小数第2位以下を四捨五入したものです。
- 複数回答の設問(設問末尾に「※複」と記載)は、すべての構成比(%)を合計すると100%を超える場合があります。
- 図中の“n=”は、各設問の対象者数を表しています。
- 表の上段は構成比、下段は回答数を表しています。





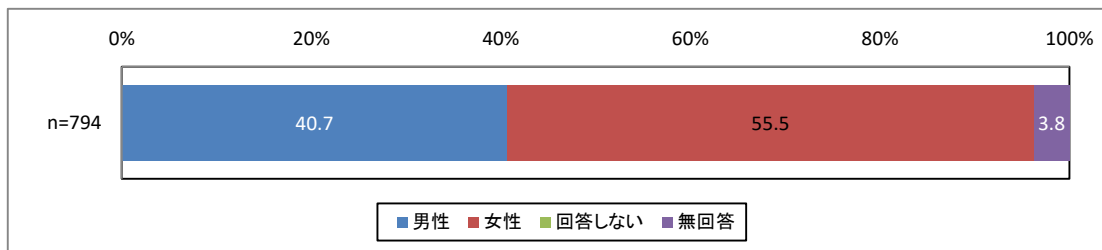
## Ⅱ 調查結果



# 1. 回答者の属性

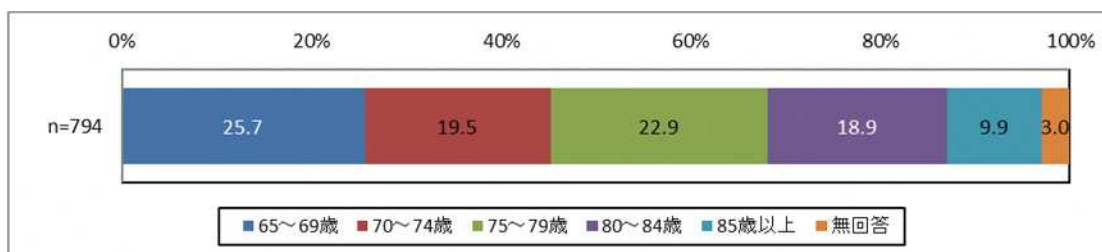
## (1) 性別

「男性」が40.7%、「女性」が52.5%となっています。



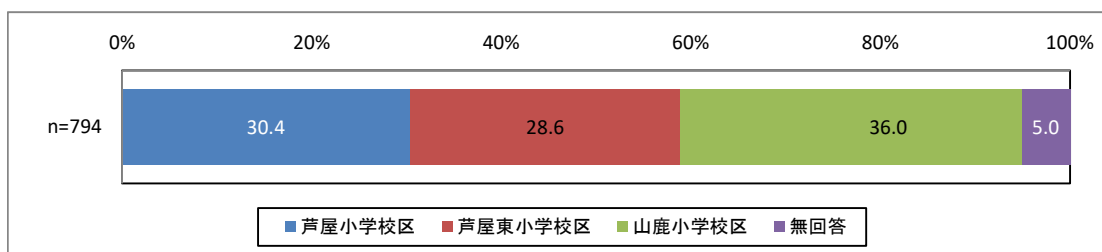
## (2) 年齢

「65～69歳」が25.7%で最も多く、次いで「75～79歳」22.9%、「70～74歳」19.5%の順となっています。



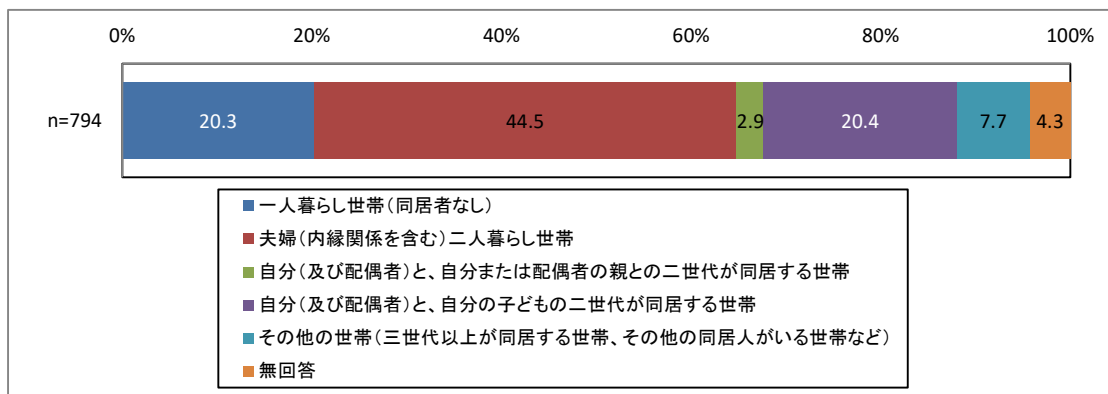
## (3) 居住校区

「山鹿小学校区」が36.0%で最も多く、次いで「芦屋小学校区」30.4%、「芦屋東小学校区」28.6%の順となっています。



#### (4) 世帯の状況

「夫婦（内縁関係を含む）二人暮らし世帯」が44.5%で最も多く、次いで「自分（及び配偶者）と、自分の子どもの二世帯が同居する世帯」20.4%、「一人暮らし世帯（同居者なし）」20.3%の順となっています。

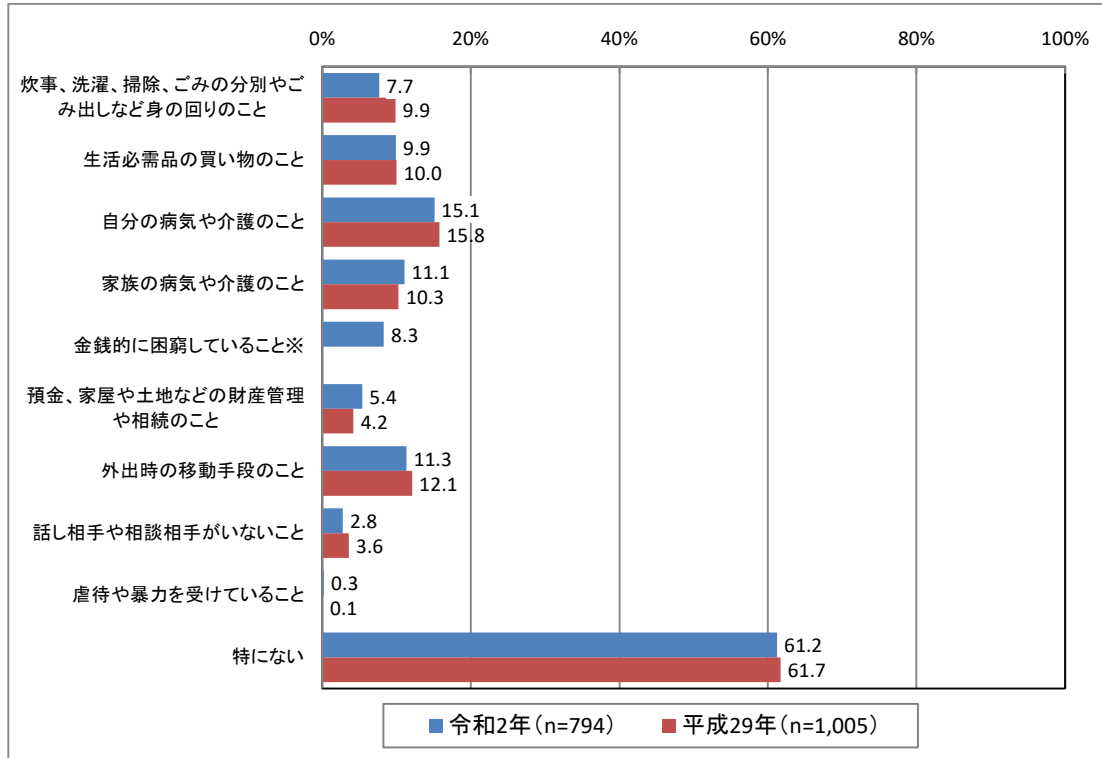


## 2. 日常生活の様子について

### (1) 日常生活での困りごと ※複

「特にない」が61.2%で最も多く、次いで「自分の病気や介護のこと」15.1%、「外出時の移動手段のこと」11.3%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「預金、家屋や土地などの財産管理や相続のこと」などが増加し、「炊事、洗濯、掃除、ごみの分別やごみ出しなど身の回りのこと」などが減少しています。



「※」の項目は平成29年調査にはない

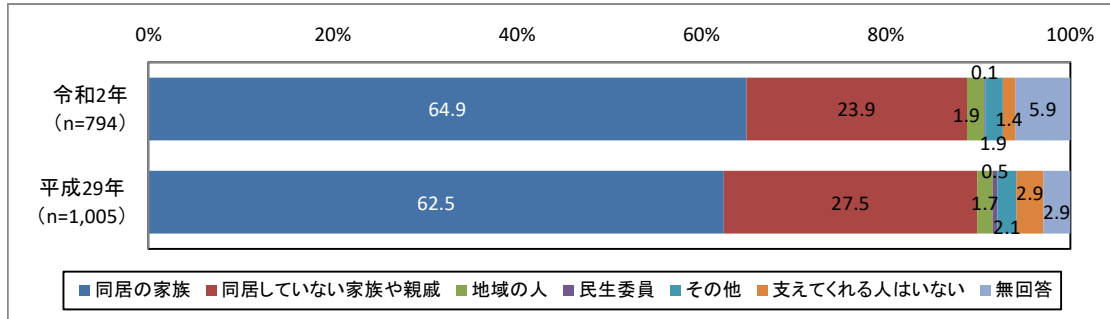
日常生活での困りごとを年齢別でみると「炊事、洗濯、掃除、ごみの分別やごみ出しなど身の回りのこと」「外出時の移動手段のこと」で年齢が高くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	炊事、洗濯、掃除、ごみの分別やごみ出しなど身の回りのこと	生活必需品の買い物のこと	自分の病気や介護のこと	家族の病気や介護のこと	金銭的に困窮していること	預金、家屋や土地などの財産管理や相続のこと	外出時の移動手段のこと	話し相手や相談相手がいないこと	虐待や暴力を受けていること	特にない
年齢	65～69歳	100.0	4.9	4.9	11.8	11.3	7.4	6.4	4.9	2.5	0.5	69.6
		204	10	10	24	23	15	13	10	5	1	142
	70～74歳	100.0	3.2	3.9	8.4	8.4	11.0	5.2	7.7	1.9	0.0	74.2
		155	5	6	13	13	17	8	12	3	0	115
	75～79歳	100.0	7.1	11.0	17.0	10.4	8.2	6.0	12.6	2.2	0.5	61.0
		182	13	20	31	19	15	11	23	4	1	111
	80～84歳	100.0	12.7	19.3	23.3	15.3	10.7	4.0	18.7	3.3	0.0	51.3
		150	19	29	35	23	16	6	28	5	0	77
	85歳以上	100.0	17.7	17.7	21.5	12.7	3.8	6.3	21.5	6.3	0.0	50.6
		79	14	14	17	10	3	5	17	5	0	40
無回答	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	
	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	

## (2) 日常生活で困ったときに支えてくれる人

「同居の家族」が64.9%で最も多く、次いで「同居していない家族や親戚」23.9%、「地域の人」「その他」1.9%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「同居の家族」などが増加し、「同居していない家族や親戚」などが減少しています。



日常生活で困ったときに支えてくれる人を性別でみると、「同居の家族」などで「男性」、「同居していない家族や親戚」などで「女性」が多くなっています。

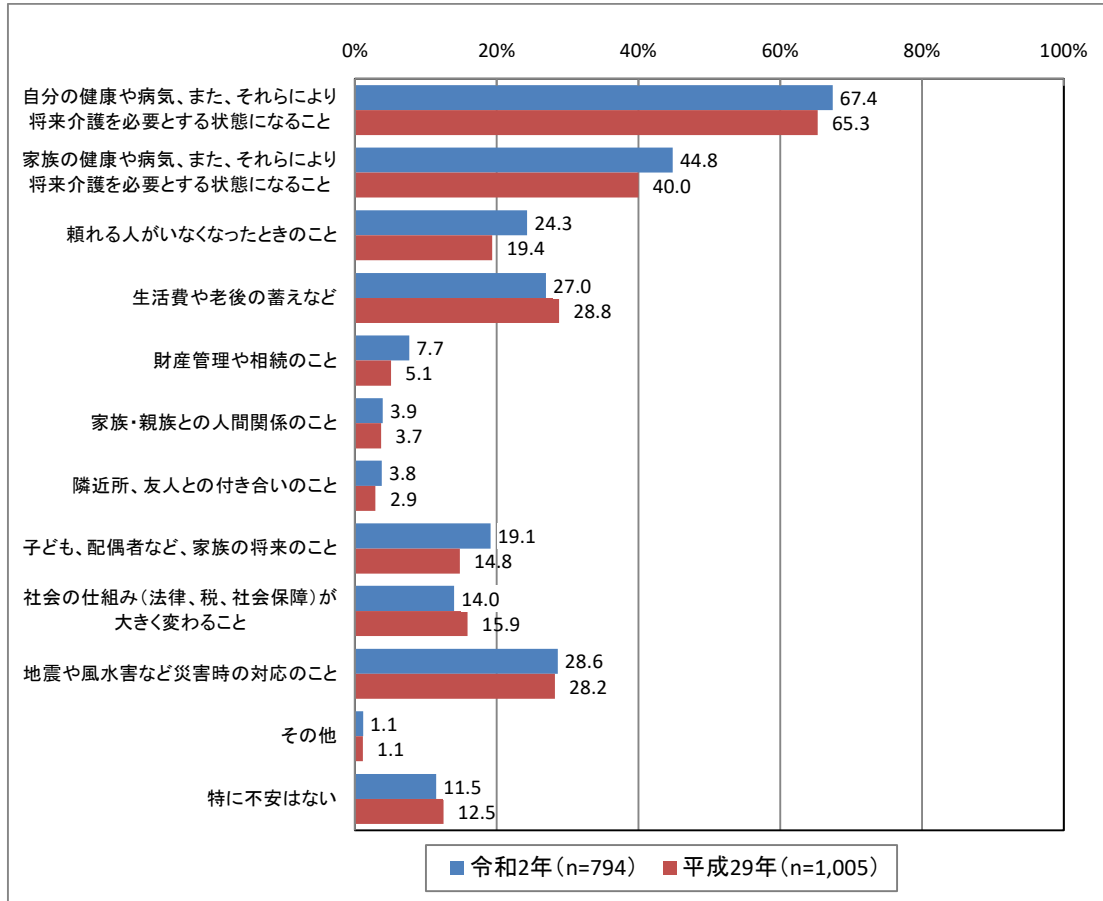
年齢別では「同居していない家族や親戚」で年齢が高くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	同居の家族	同居していない家族や親戚	地域の人	民生委員	その他	支えてくれる人はいない	無回答
性別	男性	100.0 323	74.6 241	17.3 56	0.6 2	0.0 0	1.5 5	2.5 8	3.4 11
	女性	100.0 441	61.2 270	30.2 133	2.9 13	0.2 1	2.3 10	0.5 2	2.7 12
	無回答	100.0 30	13.3 4	3.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	3.3 1	80.0 24
年齢	65～69歳	100.0 204	75.5 154	16.7 34	1.0 2	0.0 0	1.5 3	2.5 5	2.9 6
	70～74歳	100.0 155	71.0 110	21.3 33	0.6 1	0.0 0	1.9 3	3.2 5	1.9 3
	75～79歳	100.0 182	67.6 123	22.5 41	3.3 6	0.5 1	2.7 5	0.0 0	3.3 6
	80～84歳	100.0 150	62.7 94	30.7 46	2.7 4	0.0 0	2.0 3	0.0 0	2.0 3
	85歳以上	100.0 79	41.8 33	45.6 36	2.5 2	0.0 0	1.3 1	1.3 1	7.6 6
	無回答	100.0 24	4.2 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	95.8 23

### (3) 将来の生活で不安に感じること ※複

「自分の健康や病気、また、それらにより将来介護を必要とする状態になること」が67.4%で最も多く、次いで「家族の健康や病気、また、それらにより将来介護を必要とする状態になること」44.8%、「地震や風水害など災害時の対応のこと」28.6%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「頼れる人がいなくなった時のこと」「家族の健康や病気、また、それらにより将来介護を必要とする状態になること」などが増加し、「社会の仕組み（法律、税、社会保障）が大きく変わること」「生活費や老後の蓄えなど」などが減少しています。



将来の生活で不安に感じることを性別でみると、ほとんどの項目で「女性」より「男性」の方が不安を感じる割合が多くなっています。

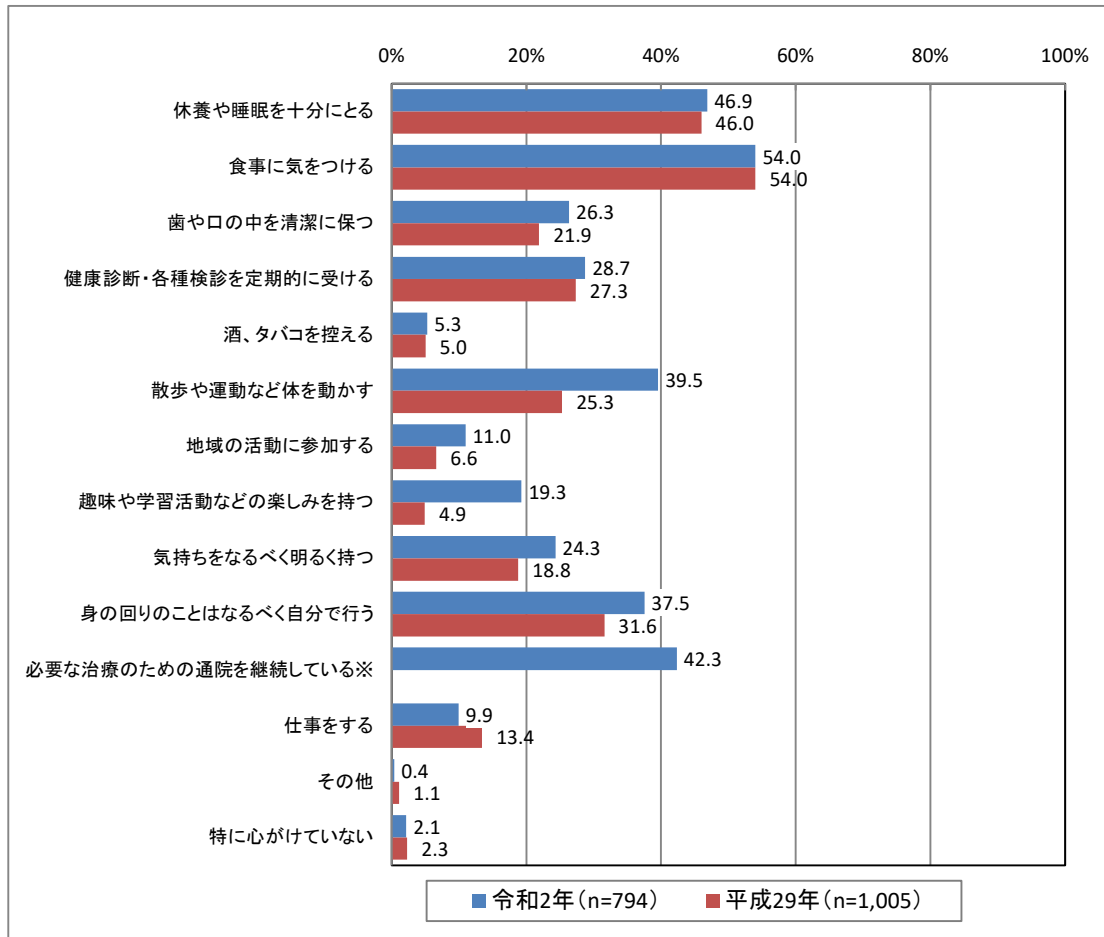
属性	区分	全体	自分の健康や病気、また、それらにより将来介護を必要とする状態になること	家族の健康や病気、また、それらにより将来介護を必要とする状態になること	頼れる人がいなくなった時のこと	生活費や老後の蓄えなど	財産管理や相続のこと	家族・親族との人間関係のこと	隣近所、友人との付き合いのこと	子ども、配偶者など、家族の将来のこと	社会の仕組み（法律、税、社会保障）が大きく変わること	地震や風水害など災害時の対応のこと	その他	特に不安はない
性別	男性	100.0	74.0	54.5	23.5	29.4	10.5	5.3	5.6	23.5	16.4	27.2	1.2	12.7
		323	239	176	76	95	34	17	18	76	53	88	4	41
	女性	100.0	66.0	39.7	26.1	26.3	6.1	2.9	2.5	16.6	12.9	30.8	1.1	11.3
		441	291	175	115	116	27	13	11	73	57	136	5	50
無回答	100.0	16.7	16.7	6.7	10.0	0.0	3.3	3.3	10.0	3.3	10.0	0.0	0.0	
	30	5	5	2	3	0	1	1	3	1	3	0	0	

### 3. 健康・介護予防について

#### (1) 健康のために心がけていること ※複

「食事に気をつける」が54.0%で最も多く、次いで「休養や睡眠を十分にとる」46.9%、「必要な治療のための通院を継続している」42.3%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「散歩や運動など体を動かす」「趣味や学習活動などの楽しみを持つ」などが増加し、「仕事をする」が減少しています。



「※」の項目は平成29年調査にはない

健康のために心がけていることを性別で見ると、「散歩や運動など体を動かす」などで「男性」、「気持ちをなるべく明るく持つ」などで「女性」が多くなっています。

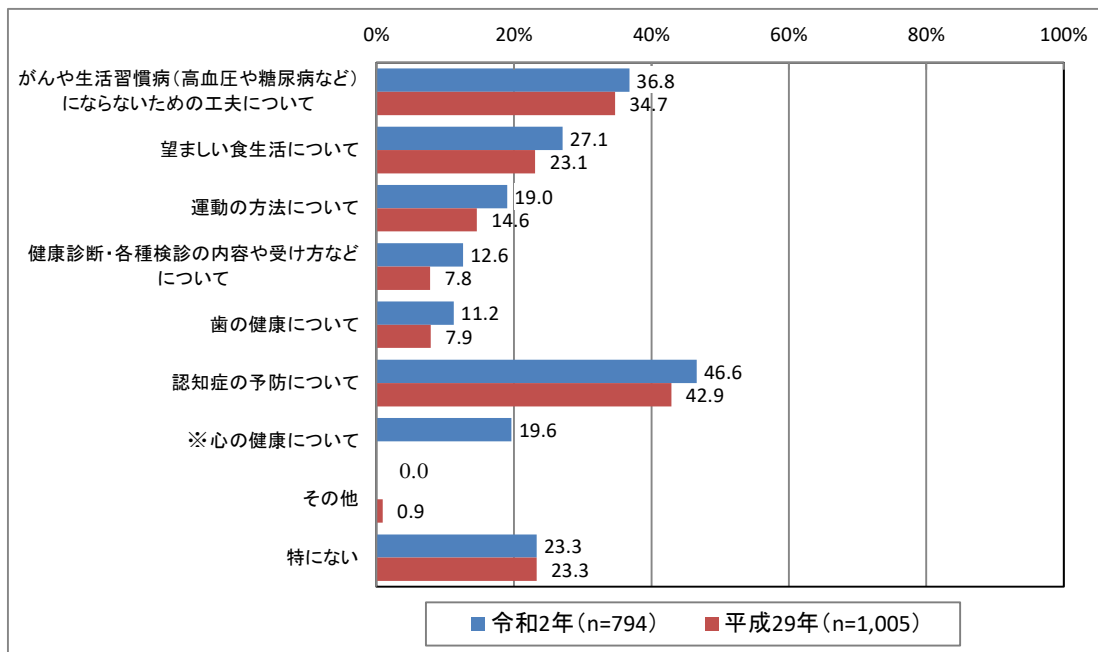
属性	区分	全体	休養や睡眠を十分にとる	食事に気をつける	歯や口の中を清潔に保つ	健康診断・各種検診を定期的に受ける	酒、タバコを控える	散歩や運動など体を動かす	地域の活動に参加する	趣味や学習活動などの楽しみを持つ	気持ちをなるべく明るく持つ	身の回りのことはなるべく自分で行う	必要な治療のための通院を継続している	仕事をする	その他	特に心がけていない
性別	男性	100.0	49.8	52.0	24.8	32.8	9.9	47.4	10.8	22.3	20.4	38.1	41.5	11.8	0.3	2.2
		323	161	168	80	106	32	153	35	72	66	123	134	38	1	7
	女性	100.0	46.7	58.0	28.6	27.2	2.0	36.1	11.8	18.4	28.6	38.8	44.7	9.1	0.2	2.0
		441	206	256	126	120	9	159	52	81	126	171	197	40	1	9
無回答	100.0	16.7	16.7	10.0	6.7	3.3	6.7	0.0	0.0	3.3	13.3	16.7	3.3	3.3	3.3	
	30	5	5	3	2	1	2	0	0	1	4	5	1	1	1	



## (2) 健康について知りたいこと ※複

「認知症の予防について」が46.6%で最も多く、次いで「がんや生活習慣病（高血圧や糖尿病など）にならないための工夫について」36.8%、「望ましい食生活について」27.1%の順となっています。

平成29年調査と比較するとほとんどの項目において増加しています。



「※」の項目は平成29年調査にはない

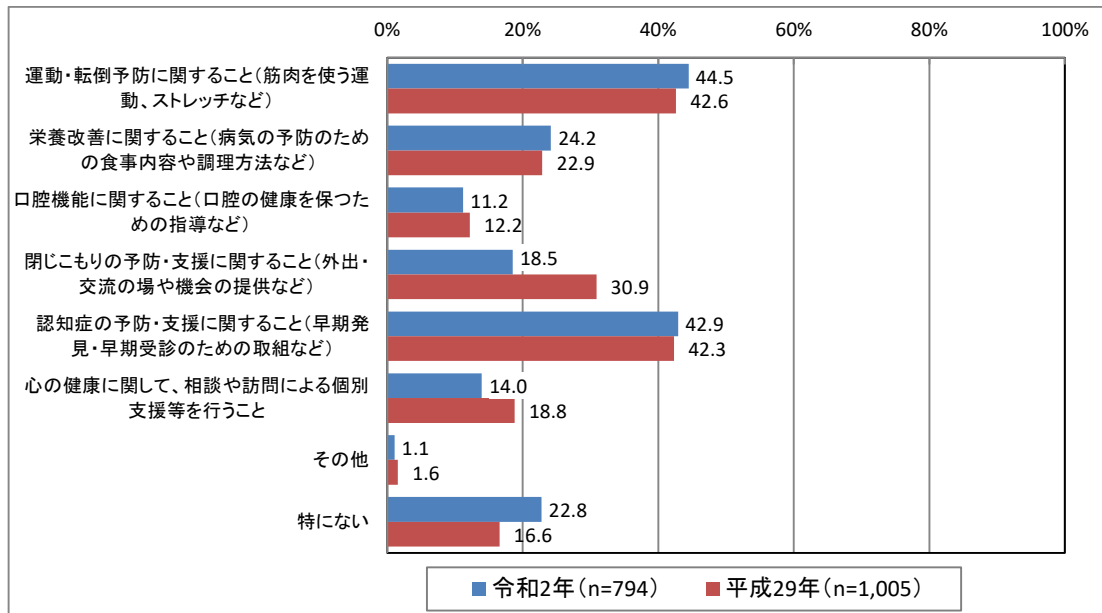
健康について知りたいことを性別でみると、「がんや生活習慣病にならないための工夫について」「健康診断・各種検診の内容や受け方などについて」などで「男性」、「心の健康について」などで「女性」が多くなっています。

属性	区分	全体	やが	望	運	健	歯	認	心	そ	特
			ん糖	ま	動	康	の	知	の	他	に
			ん糖	ま	動	康	の	知	心	他	に
			尿	ま	動	診	健	症	の		に
			病	ま	方	断	康	の	健		に
			な	ま	法	や	の	予	康		に
			ら	ま	法	受	健	防	に		に
			な	ま	に	け	に	に	つ		に
			い	ま	つ	方	つ	つ	い		に
			い	ま	い	な	の	い	て		に
			て	ま	て	い	内	て			に
			い	ま	て	容	容				に
性別	男性	100.0	41.5	26.6	20.4	14.9	10.2	45.2	14.9	0.0	24.8
		323	134	86	66	48	33	146	48	0	80
	女性	100.0	31.7	27.0	17.0	10.9	11.8	48.1	22.9	0.0	23.1
		441	140	119	75	48	52	212	101	0	102
無回答	100.0	60.0	33.3	33.3	13.3	13.3	40.0	23.3	0.0	10.0	
	30	18	10	10	4	4	12	7	0	3	

### (3) 要介護状態にならないためにやってほしい教室・事業 ※複

「運動・転倒予防に関すること（筋肉を使う運動、ストレッチなど）」が 44.5%で最も多く、次いで「認知症の予防・支援に関すること（早期発見・早期受診のための取組など）」42.9%、「栄養改善に関すること（病気の予防のための食事内容や調理方法など）」24.2%の順となっています。

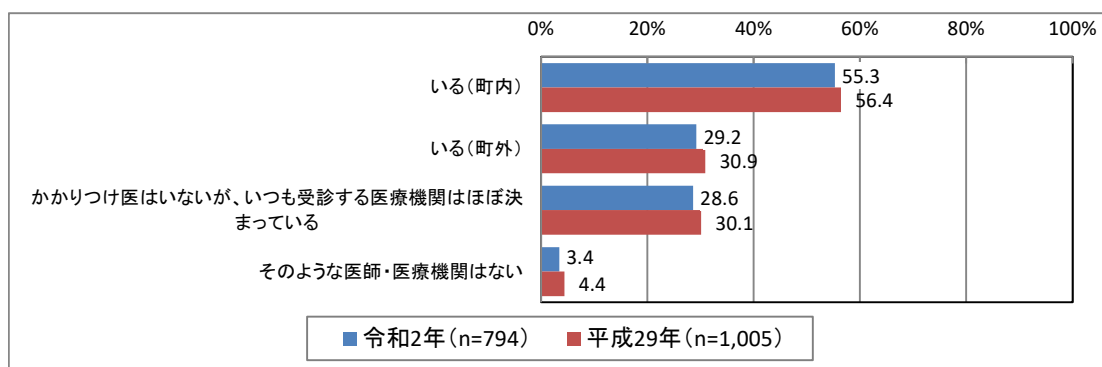
平成 29 年調査と比較すると「特にない」「運動・転倒予防に関すること（筋肉を使う運動、ストレッチなど）」などが増加し、「閉じこもりの予防・支援に関すること（外出・交流の場や機会の提供など）」が減少しています。



### (4) かかりつけ医の有無 ※複

「いる（町内）」が 55.3%で最も多く、次いで「いる（町外）」29.2%、「かかりつけ医はいないが、いつも受診する医療機関はほぼ決まっている」28.6%の順となっています。

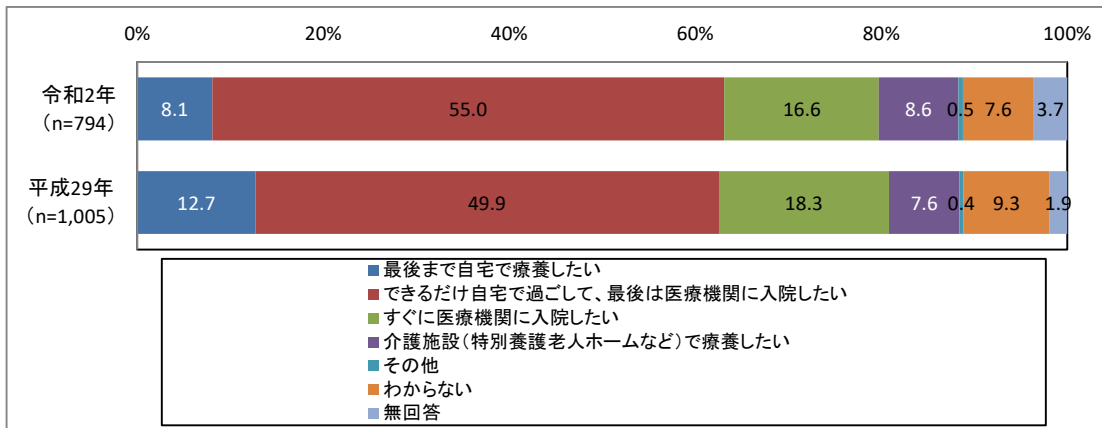
平成 29 年調査と比較すると全ての項目において減少しています。



### (5) 治療困難と診断された場合に希望する療養場所

「できるだけ自宅で過ごして、最後は医療機関に入院したい」が55.0%で最も多く、次いで「すぐに医療機関に入院したい」16.6%、「介護施設（特別養護老人ホームなど）で療養したい」8.6%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「できるだけ自宅で過ごして、最後は医療機関に入院したい」などが増加し、「最後まで自宅で療養したい」が減少しています。



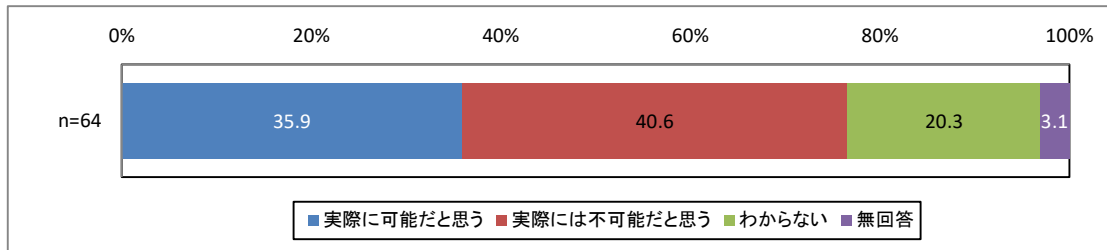
治療困難と診断された場合に希望する療養場所を年齢別で見ると、「最後まで自宅で療養したい」で「85歳以上」、「できるだけ自宅で過ごして、最後は医療機関に入院したい」で「65～69歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	最後まで自宅で療養したい	できるだけ自宅で療養したい	すぐに医療機関に入院したい	介護施設(特別養護老人ホームなど)で療養したい	その他	わからない	無回答
年齢	65～69歳	100.0	8.8	60.8	12.7	6.9	1.0	7.8	2.0
		204	18	124	26	14	2	16	4
	70～74歳	100.0	6.5	58.1	16.1	7.1	0.0	11.0	1.3
		155	10	90	25	11	0	17	2
	75～79歳	100.0	7.1	46.7	25.3	9.9	0.5	6.6	3.8
		182	13	85	46	18	1	12	7
	80～84歳	100.0	8.0	57.3	16.0	9.3	0.0	6.7	2.7
		150	12	86	24	14	0	10	4
	85歳以上	100.0	12.7	51.9	7.6	11.4	0.0	5.1	11.4
		79	10	41	6	9	0	4	9
	無回答	100.0	4.2	45.8	20.8	8.3	4.2	4.2	12.5
		24	1	11	5	2	1	1	3

## (6) 実際に最後まで自宅で療養するの可能性

### 「最後まで自宅で療養したい」と回答した方

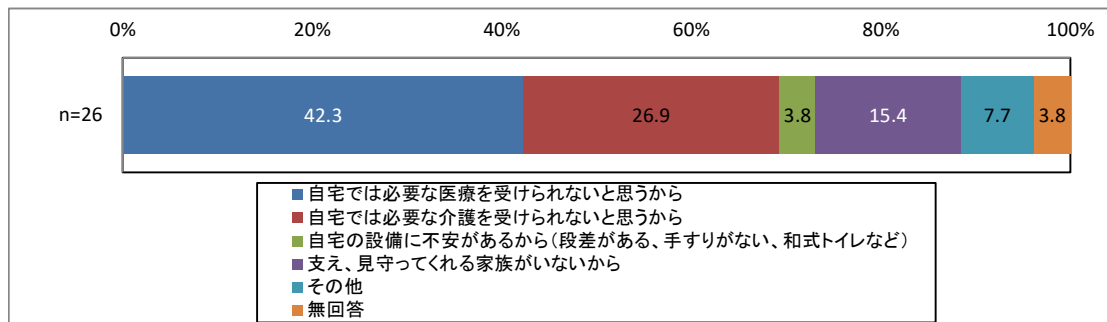
「実際には不可能だと思う」が40.6%で最も多く、次いで「実際に可能だと思う」35.9%、「わからない」20.3%の順となっています。



## (7) 不可能だと思う理由

### 「実際には不可能だと思う」と回答した方

「自宅では必要な医療を受けられないと思うから」が42.3%で最も多く、次いで「自宅では必要な介護を受けられないと思うから」26.9%、「支え、見守ってくれる家族がいないから」15.4%の順となっています。

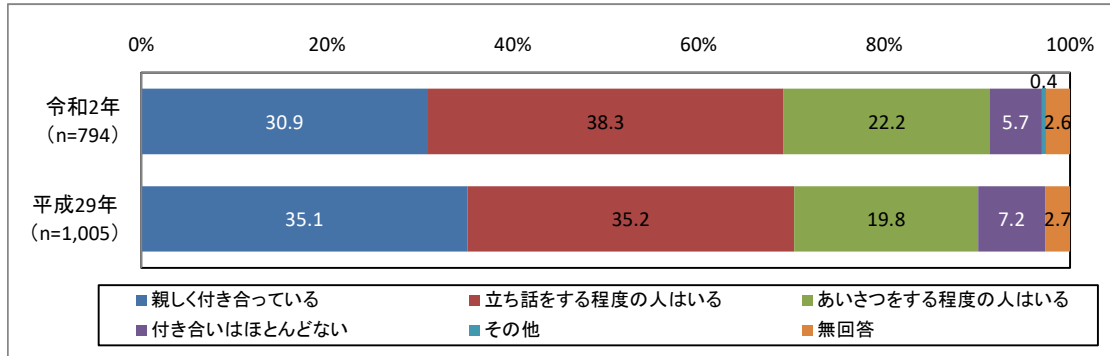


## 4. 社会参加・生きがいについて

### (1) 近所付き合いの程度

「立ち話をする程度の人はいる」が 38.3%で最も多く、次いで「親しく付き合っている」30.9%、「あいさつをする程度の人はいる」22.2%の順となっています。

平成 29 年調査と比較すると「立ち話をする程度の人はいる」などが増加し、「親しく付き合っている」などが減少しています。



近所付き合いの程度を性別でみると、「あいさつをする程度の人はいる」で「男性」、「親しく付き合っている」で「女性」が多くなっています。

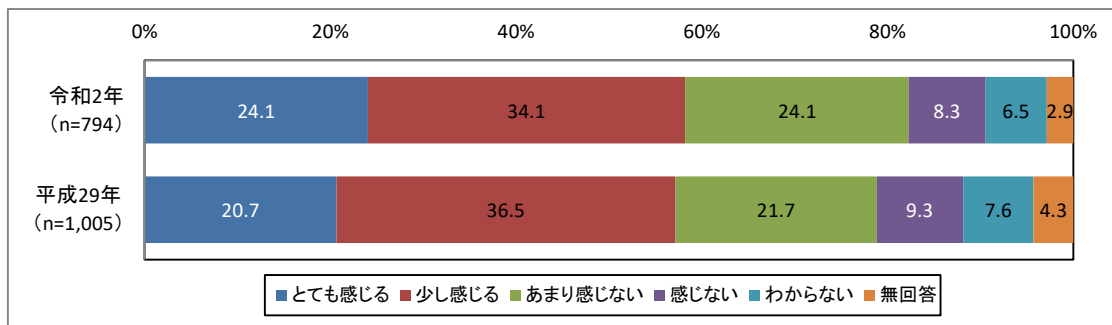
年齢別では、「親しく付き合っている」で「75歳以上」、「立ち話をする程度の人はいる」で「65～74歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	近所付き合いの程度					
			親しく付き合っている	立ち話をする程度の人はいる	あいさつをする程度の人はいる	付き合いはほとんどない	その他	無回答
性別	男性	100.0	25.1	38.7	27.6	7.1	0.3	1.2
		323	81	125	89	23	1	4
	女性	100.0	35.4	39.0	17.7	4.3	0.5	3.2
		441	156	172	78	19	2	14
	無回答	100.0	26.7	23.3	30.0	10.0	0.0	10.0
		30	8	7	9	3	0	3
年齢	65～69歳	100.0	16.7	44.1	29.9	8.3	0.0	1.0
		204	34	90	61	17	0	2
	70～74歳	100.0	23.2	48.4	20.6	5.2	0.0	2.6
		155	36	75	32	8	0	4
	75～79歳	100.0	42.9	35.2	14.8	4.4	1.6	1.1
		182	78	64	27	8	3	2
	80～84歳	100.0	40.7	32.0	21.3	2.7	0.0	3.3
		150	61	48	32	4	0	5
85歳以上	100.0	38.0	29.1	19.0	7.6	0.0	6.3	
	79	30	23	15	6	0	5	
	無回答	100.0	25.0	16.7	37.5	8.3	0.0	12.5
		24	6	4	9	2	0	3

## (2) 居住地域内のつながり

「少し感じる」が34.1%で最も多く、次いで「とても感じる」「あまり感じない」24.1%、「感じない」8.3%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「とても感じる」などが増加し、「少し感じる」などが減少しています。



居住地域内のつながりを性別でみると、「感じない」で「男性」、「とても感じる」で「女性」が多くなっています。

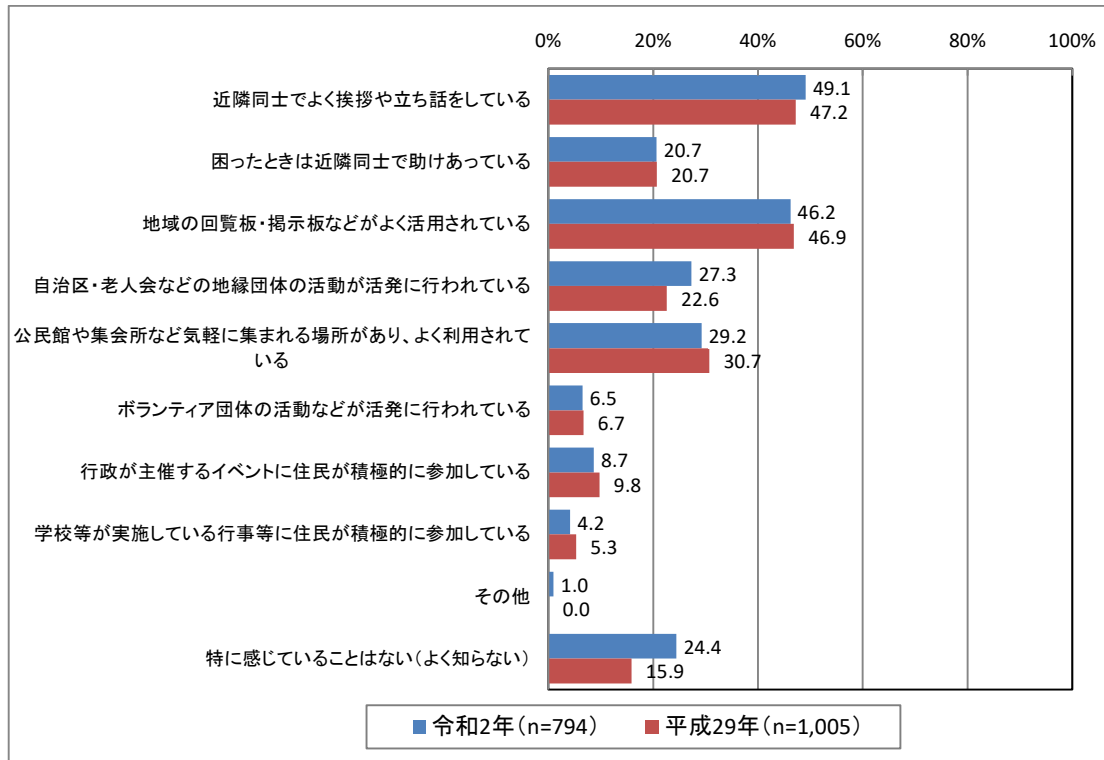
年齢別では、「とても感じる」で年齢が高くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	感じる程度					
			とても感じる	少し感じる	あまり感じない	感じない	わからない	無回答
性別	男性	100.0	20.7	35.0	22.9	11.8	8.0	1.5
		323	67	113	74	38	26	5
	女性	100.0	26.1	34.2	24.3	6.3	5.2	3.9
		441	115	151	107	28	23	17
	無回答	100.0	30.0	23.3	33.3	0.0	10.0	3.3
		30	9	7	10	0	3	1
年齢	65～69歳	100.0	14.7	37.7	27.0	13.7	5.9	1.0
		204	30	77	55	28	12	2
	70～74歳	100.0	16.8	35.5	29.7	7.1	8.4	2.6
		155	26	55	46	11	13	4
	75～79歳	100.0	24.7	36.8	20.3	6.6	8.8	2.7
		182	45	67	37	12	16	5
	80～84歳	100.0	35.3	32.7	18.0	6.7	3.3	4.0
		150	53	49	27	10	5	6
85歳以上	100.0	36.7	24.1	21.5	6.3	5.1	6.3	
	79	29	19	17	5	4	5	
	無回答	100.0	33.3	16.7	37.5	0.0	8.3	4.2
		24	8	4	9	0	2	1

### (3) 居住地域で感じていること ※複

「近隣同士でよく挨拶や立ち話をしている」が49.1%で最も多く、次いで「地域の回覧板・掲示板などがよく活用されている」46.2%、「公民館や集会所など気軽に集まれる場所があり、よく利用されている」29.2%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「自治区・老人会などの地縁団体の活動が活発に行われている」などが増加し、「公民館や集会所など気軽に集まれる場所があり、よく利用されている」などが減少しています。

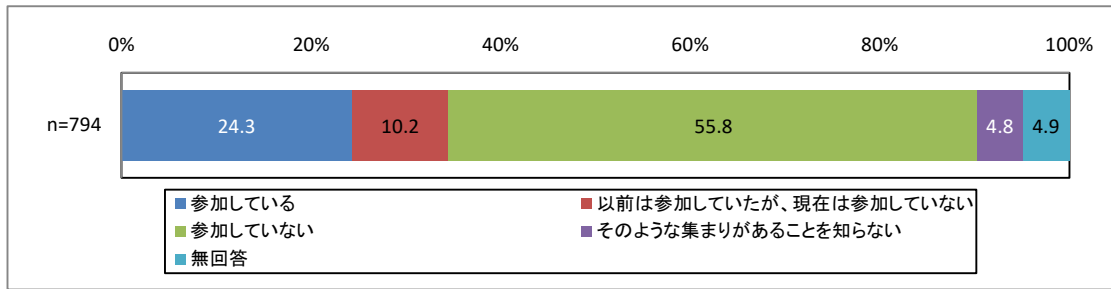


居住地域で感じていることを性別でみると、「特に感じていることはない(よく知らない)」などで「男性」、「近隣同士でよく挨拶や立ち話をしている」などで「女性」が多くなっています。

属性	区分	全体	近隣同士でよく挨拶や立ち話をしている	困ったときは近隣同士で助けあっている	地域の回覧板・掲示板などがよく活用されている	自治区・老人会などの地縁団体の活動が活発に行われている	公民館や集会所など気軽に集まれる場所があり、よく利用されている	ボランティア団体の活動などが活発に行われている	行政が主催するイベントに住民が積極的に参加している	学校等が実施している行事等に住民が積極的に参加している	その他	特に感じていることはない(よく知らない)
			割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
性別	男性	100.0	44.6	18.0	46.7	25.7	26.9	6.8	7.1	3.7	0.6	30.3
		323	144	58	151	83	87	22	23	12	2	98
	女性	100.0	52.8	22.0	46.9	28.6	30.8	6.1	9.5	4.8	1.4	19.7
		441	233	97	207	126	136	27	42	21	6	87
無回答	100.0	43.3	30.0	30.0	26.7	30.0	10.0	13.3	0.0	0.0	0.0	30.0
	30	13	9	9	8	9	3	4	0	0	0	9

(4) 通いの場（地域交流サロン、自治区体操教室、地域の親しい人の集まり、趣味のサークル等）への定期的な参加状況

「参加していない」が55.8%で最も多く、次いで「参加している」24.3%、「以前は参加していたが、現在は参加していない」10.2%の順となっています。



通いの場への定期的な参加状況を性別で見ると、「参加していない」で「男性」、「参加している」で「女性」が多くなっています。

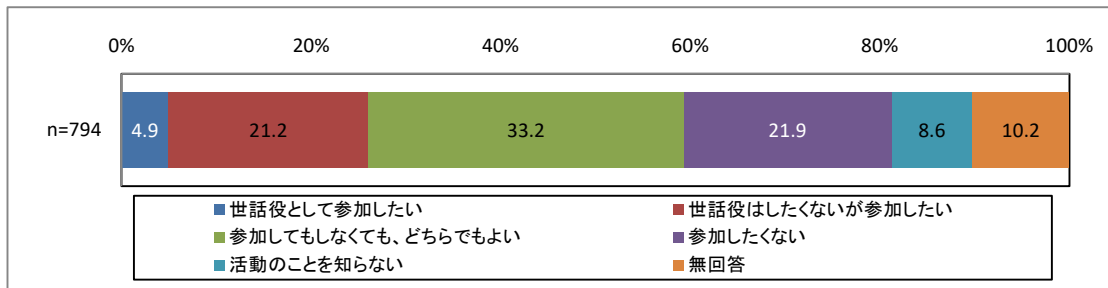
年齢別では、「参加している」で「75～84歳」、「参加していない」で「65～74歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	参加状況				
			参加している	以前は参加していたが、現在は参加していない	参加していない	そのような集まりがあることを知らない	無回答
性別	男性	100.0 323	22.0 71	9.0 29	60.1 194	5.6 18	3.4 11
	女性	100.0 441	27.2 120	10.2 45	52.8 233	3.9 17	5.9 26
	無回答	100.0 30	6.7 2	23.3 7	53.3 16	10.0 3	6.7 2
	合計	100.0	24.3	10.2	55.8	4.8	4.9
年齢	65～69歳	100.0 204	15.2 31	2.9 6	72.1 147	6.4 13	3.4 7
	70～74歳	100.0 155	18.7 29	9.0 14	63.9 99	5.8 9	2.6 4
	75～79歳	100.0 182	34.6 63	11.5 21	45.1 82	3.3 6	5.5 10
	80～84歳	100.0 150	32.0 48	13.3 20	46.7 70	3.3 5	4.7 7
	85歳以上	100.0 79	25.3 20	19.0 15	39.2 31	3.8 3	12.7 10
	無回答	100.0 24	8.3 2	20.8 5	58.3 14	8.3 2	4.2 1
	合計	100.0	24.3	10.2	55.8	4.8	4.9



### (5) 体操教室や地域交流サロン活動への参加意向

「参加してもしなくても、どちらでもよい」が33.2%で最も多く、次いで「参加したくない」21.9%、「世話役はしたくないが参加したい」21.2%の順となっています。



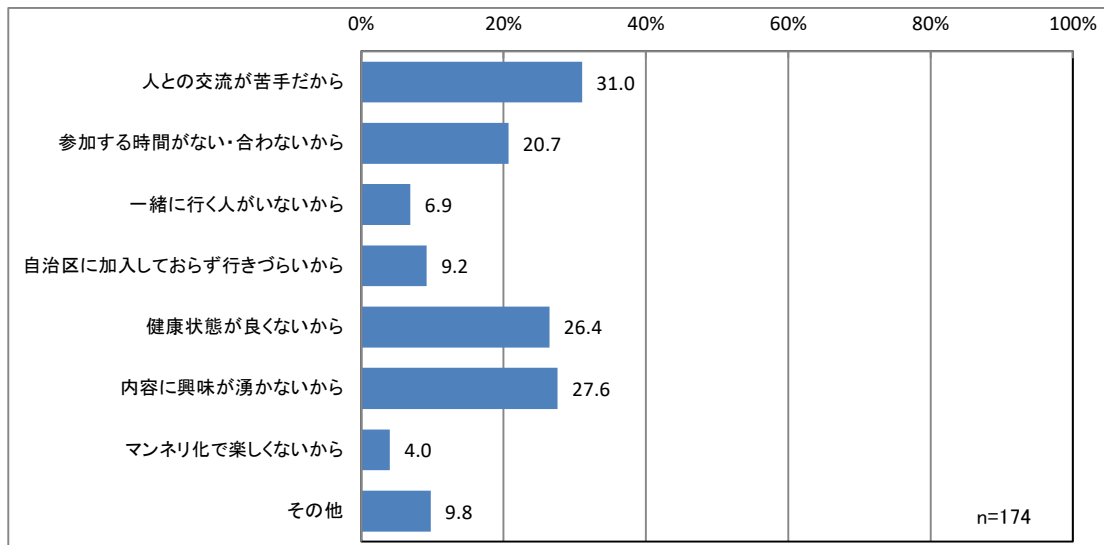
体操教室や地域交流サロン活動への参加意向を年齢別で見ると、「世話役はしたくないが参加したい」で「75歳以上」、「活動のことを知らない」で「65～74歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	世話役として参加したい	世話役はしたくないが参加したい	参加してもしなくても、どちらでもよい	参加したくない	活動のことを知らない	無回答	
									割合 (%)
年齢	65～69歳	100.0	4.9	13.2	38.2	24.5	14.2	4.9	
		204	10	27	78	50	29	10	
	70～74歳	100.0	5.2	14.2	36.1	25.2	11.6	7.7	
		155	8	22	56	39	18	12	
	75～79歳	100.0	6.0	28.6	31.9	17.6	3.8	12.1	
		182	11	52	58	32	7	22	
	80～84歳	100.0	5.3	26.0	28.7	22.7	5.3	12.0	
	150	8	39	43	34	8	18		
85歳以上	100.0	2.5	26.6	24.1	21.5	3.8	21.5		
	79	2	21	19	17	3	17		
無回答	100.0	0.0	29.2	41.7	8.3	12.5	8.3		
	24	0	7	10	2	3	2		

(6) 体操教室や地域交流サロン活動へ参加したくない理由 ※複

「参加したくない」と回答した方

「人との交流が苦手だから」が 31.0%で最も多く、次いで「内容に興味が湧かないから」27.6%、「健康状態が良くないから」26.4%の順となっています。

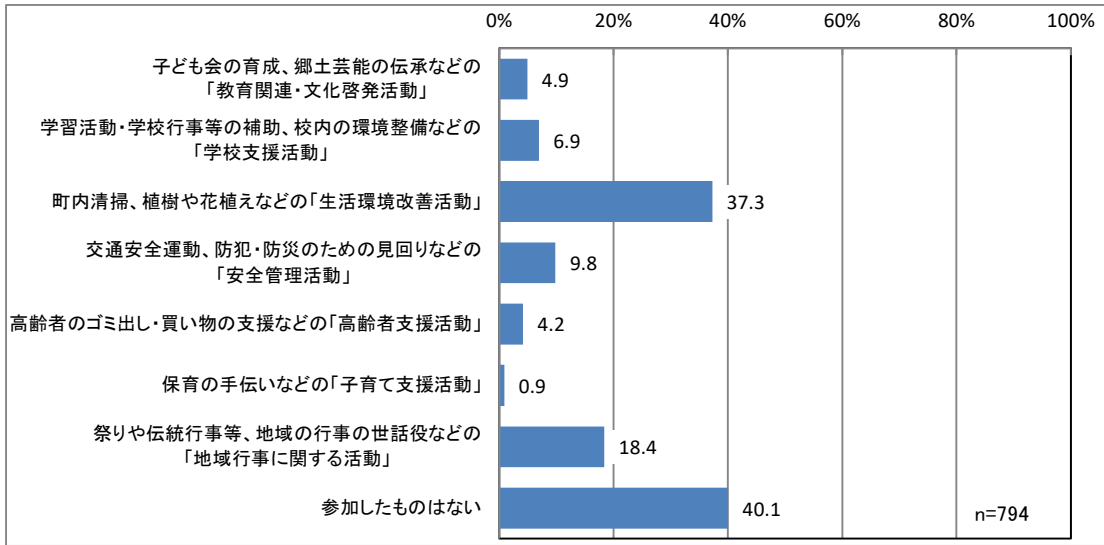


体操教室や地域交流サロン活動へ参加したくない理由を年齢別でみると、「健康状態が良くないから」で年齢が高くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	人との交流が苦手だから	参加する時間がない・合わないから	一緒に行く人がいないから	自治区に加入しておらず行きづらいから	健康状態が良くないから	内容に興味が湧かないから	マネリ化で楽しくないから	その他
年齢	65～69歳	100.0	42.0	32.0	12.0	6.0	14.0	34.0	6.0	10.0
		50	21	16	6	3	7	17	3	5
	70～74歳	100.0	30.8	25.6	7.7	20.5	17.9	25.6	5.1	10.3
		39	12	10	3	8	7	10	2	4
	75～79歳	100.0	28.1	12.5	0.0	12.5	34.4	28.1	3.1	6.3
		32	9	4	0	4	11	9	1	2
	80～84歳	100.0	23.5	8.8	2.9	0.0	38.2	26.5	0.0	8.8
	34	8	3	1	0	13	9	0	3	
85歳以上	100.0	23.5	17.6	11.8	5.9	41.2	11.8	5.9	17.6	
	17	4	3	2	1	7	2	1	3	
無回答	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
	2	0	0	0	0	1	1	0	0	

(7) ボランティア活動への参加状況 ※複

「参加したものはなし」が40.1%で最も多く、次いで「町内清掃、植樹や花植えなどの「生活環境改善活動」」37.3%、「祭りや伝統行事等、地域の行事の世話役などの「地域行事に関する活動」」18.4%の順となっています。



ボランティア活動への参加状況を性別でみると、「生活環境改善活動」で「男性」が多くなっています。

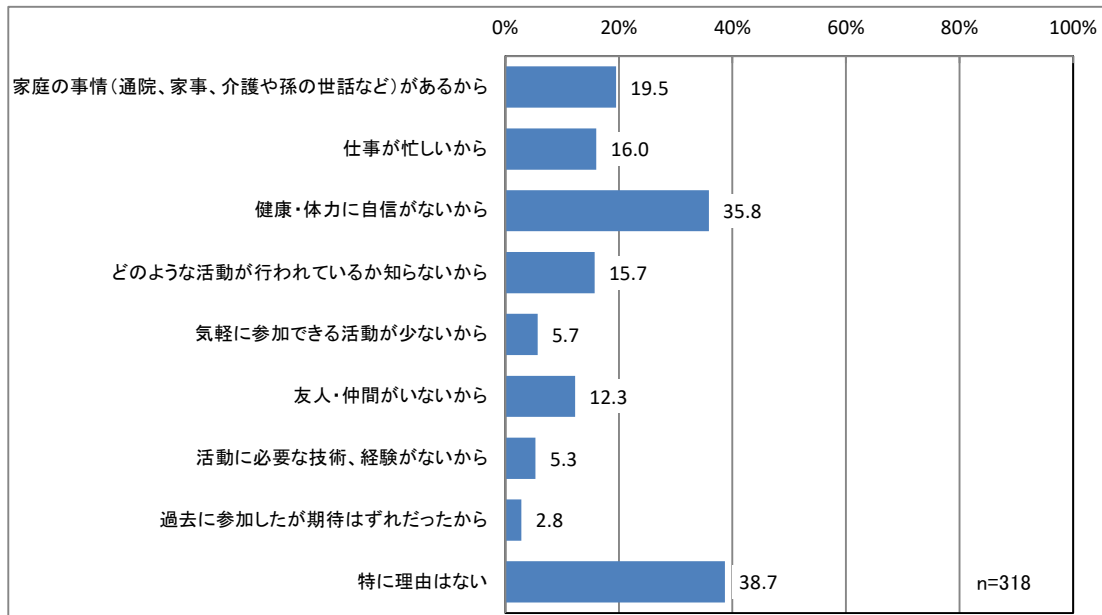
年齢別では、「学校支援活動」「生活環境改善活動」「安全管理活動」「地域行事に関する活動」で「75～79歳」が最も多くなっています。

属性	区分	全体	子ども会の育成、郷土芸能の伝承などの「教育関連・文化啓発活動」	学習活動・学校行事等の補助、校内の環境整備などの「学校支援活動」	町内清掃、植樹や花植えなどの「生活環境改善活動」	交通安全運動、防犯・防災のための見回りなどの「安全管理活動」	高齢者のゴミ出し・買い物の支援などの「高齢者支援活動」	保育の手伝いなどの「子育て支援活動」	祭りや伝統行事等、地域の行事に関する活動	参加したものはなし
			5.9	7.1	41.2	16.1	5.6	0.6	22.6	39.9
性別	男性	100.0	5.9	7.1	41.2	16.1	5.6	0.6	22.6	39.9
		323	19	23	133	52	18	2	73	129
	女性	100.0	4.3	7.0	34.9	5.0	3.2	0.9	16.1	39.7
		441	19	31	154	22	14	4	71	175
無回答	100.0	3.3	3.3	30.0	13.3	3.3	3.3	6.7	46.7	
	30	1	1	9	4	1	1	2	14	
年齢	65～69歳	100.0	3.4	3.9	39.2	7.4	3.4	1.0	18.1	43.1
		204	7	8	80	15	7	2	37	88
	70～74歳	100.0	5.2	8.4	34.8	7.1	1.3	0.0	21.3	43.9
		155	8	13	54	11	2	0	33	68
	75～79歳	100.0	6.6	10.4	42.9	14.8	6.6	1.6	22.0	32.4
		182	12	19	78	27	12	3	40	59
	80～84歳	100.0	4.7	6.7	34.7	7.3	5.3	0.0	18.7	42.7
		150	7	10	52	11	8	0	28	64
	85歳以上	100.0	5.1	5.1	30.4	11.4	3.8	1.3	7.6	38.0
		79	4	4	24	9	3	1	6	30
無回答	100.0	4.2	4.2	33.3	20.8	4.2	4.2	8.3	37.5	
	24	1	1	8	5	1	1	2	9	

(8) ボランティア活動へ参加したことがない理由 ※複

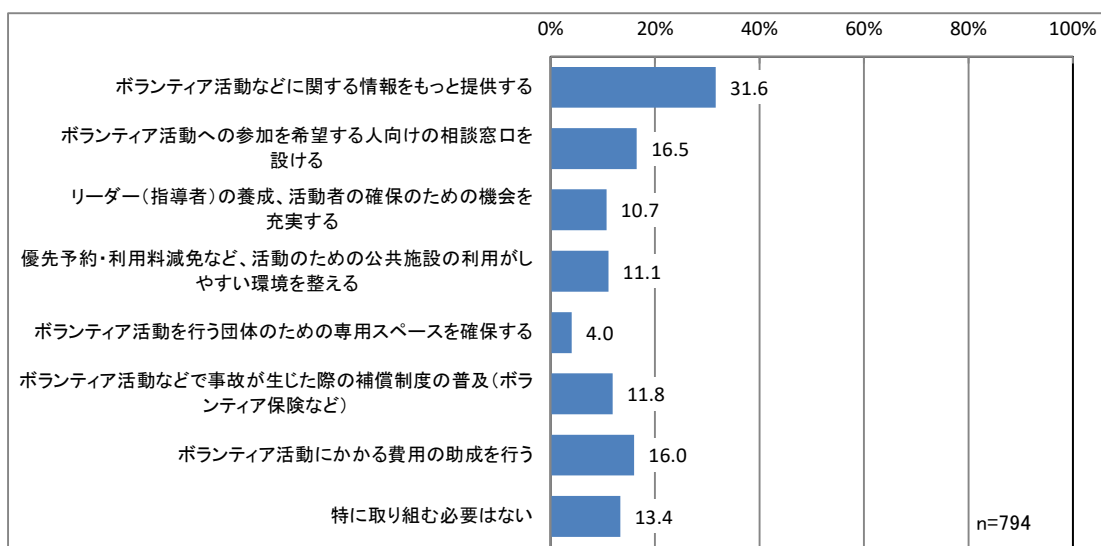
「参加したものはなし」と回答した方

「特に理由はない」が38.7%で最も多く、次いで「健康・体力に自信がないから」35.8%、「家庭の事情（通院、家事、介護や孫の世話など）があるから」19.5%の順となっています。



(9) 地域の助け合いやボランティア活動などに参加するために必要な町の取り組み ※複

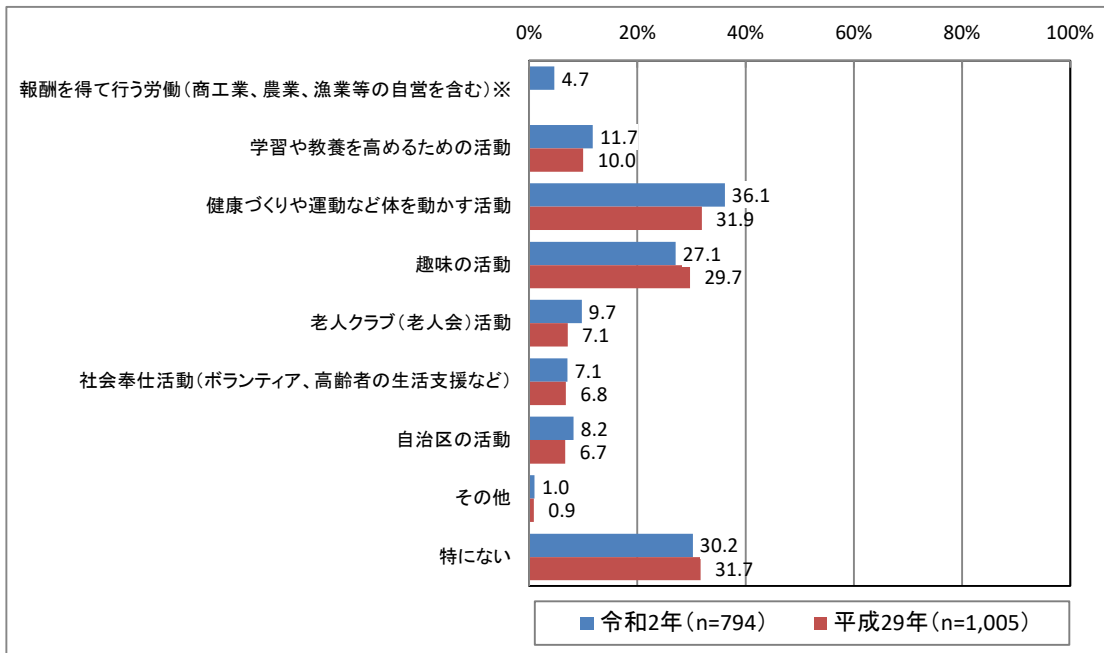
「ボランティア活動などに関する情報をもっと提供する」が31.6%で最も多く、次いで「ボランティア活動への参加を希望する人向けの相談窓口を設ける」16.5%、「ボランティア活動にかかる費用の助成を行う」16.0%の順となっています。



(10) 今後やってみたいこと ※複

「健康づくりや運動など体を動かす活動」が36.1%で最も多く、次いで「特にない」30.2%、「趣味の活動」27.1%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「健康づくりや運動など体を動かす活動」などが増加し、「趣味の活動」などが減少しています。



「※」の項目は平成29年調査にはない

今後やってみたいことを性別でみると、ほとんどの項目で「女性」より「男性」の方が多くなっています。

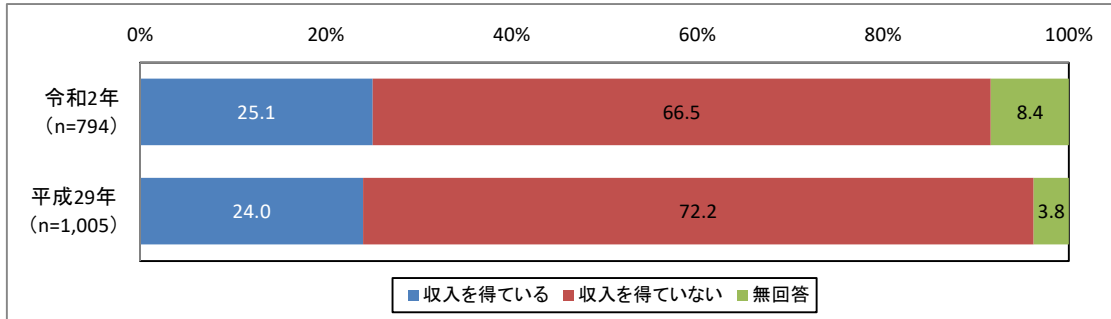
属性	区分	全体	報酬を得て行う労働(商工業、農業、漁業等の自営を含む)	学習や教養を高めるための活動	健康づくりや運動など体を動かす活動	趣味の活動	老人クラブ(老人会)活動	社会奉仕活動(ボランティア、高齢者の生活支援など)	自治区の活動	その他	特にない
性別	男性	100.0	8.0	15.2	37.8	29.7	10.2	8.0	10.5	1.2	30.3
		323	26	49	122	96	33	26	34	4	98
	女性	100.0	2.5	8.6	35.4	25.2	9.8	6.3	6.3	0.9	30.2
		441	11	38	156	111	43	28	28	4	133
無回答	100.0	0.0	20.0	30.0	26.7	3.3	6.7	10.0	0.0	30.0	
	30	0	6	9	8	1	2	3	0	9	

## 5. 就労について

### (1) 就労状況

「収入を得ている」が25.1%、「収入を得ていない」が66.5%となっています。

平成29年調査と比較すると「収入を得ている」が増加し、「収入を得ていない」が減少しています。



就労状況を性別で見ると、「収入を得ている」で「男性」が多くなっています。年齢別では、「収入を得ている」で年齢が低くなるほど多くなっています。

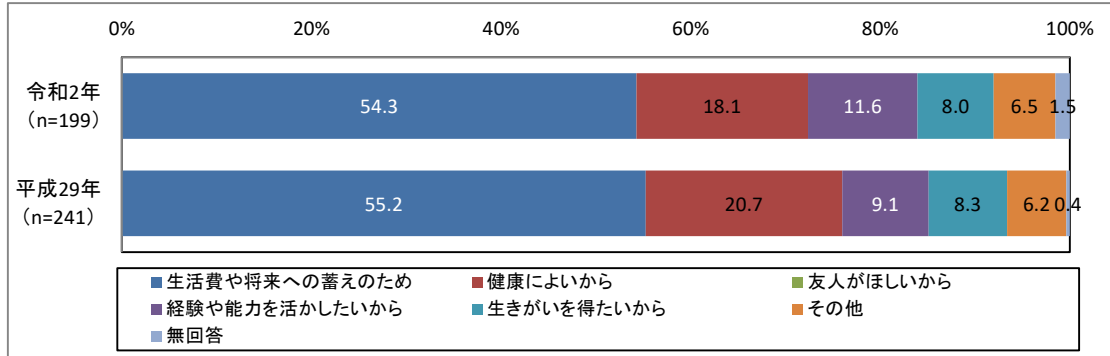
属性	区分	全体	収入		
			収入を得ている	収入を得ていない	無回答
性別	男性	100.0 323	33.4 108	60.7 196	5.9 19
	女性	100.0 441	18.8 83	70.5 311	10.7 47
	無回答	100.0 30	26.7 8	70.0 21	3.3 1
年齢	65～69歳	100.0 204	46.6 95	49.0 100	4.4 9
	70～74歳	100.0 155	31.6 49	62.6 97	5.8 9
	75～79歳	100.0 182	18.1 33	74.2 135	7.7 14
	80～84歳	100.0 150	9.3 14	75.3 113	15.3 23
	85歳以上	100.0 79	2.5 2	83.5 66	13.9 11
	無回答	100.0 24	25.0 6	70.8 17	4.2 1

## (2) 働いている理由

### 「就労状況」で「収入を得ている」と回答した方

「生活費や将来への蓄えのため」が54.3%で最も多く、次いで「健康によいから」18.1%、「経験や能力を活かしたいから」11.6%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「経験や能力を活かしたいから」などが増加し、「健康によいから」などが減少しています。



働いている理由を性別で見ると、「健康によいから」で「男性」、「生きがいを得たいから」で「女性」が多くなっています。

年齢別では、「健康によいから」で年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、「経験や能力を活かしたいから」で「75～74歳」「80～84歳」が多くなっています。

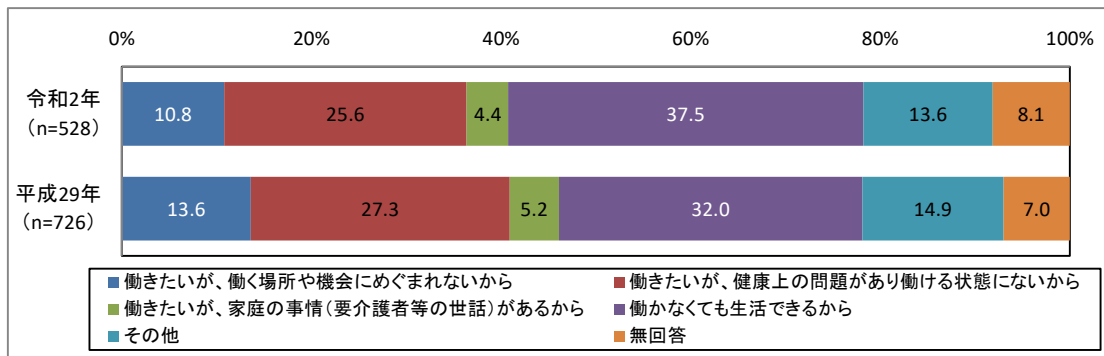
属性	区分	全体	生活費や将来への蓄えのため		友人がほしいから	経験や能力を活かしたいから		生きがいを得たいから	その他	無回答
			健康によいから	経験や能力を活かしたいから						
性別	男性	100.0	52.8	22.2	0.0	11.1	4.6	6.5	2.8	
		108	57	24	0	12	5	7	3	
	女性	100.0	56.6	13.3	0.0	12.0	13.3	4.8	0.0	
		83	47	11	0	10	11	4	0	
	無回答	100.0	50.0	12.5	0.0	12.5	0.0	25.0	0.0	
		8	4	1	0	1	0	2	0	
年齢	65～69歳	100.0	65.3	15.8	0.0	9.5	5.3	4.2	0.0	
		95	62	15	0	9	5	4	0	
	70～74歳	100.0	40.8	16.3	0.0	14.3	12.2	14.3	2.0	
		49	20	8	0	7	6	7	1	
	75～79歳	100.0	48.5	21.2	0.0	9.1	12.1	3.0	6.1	
		33	16	7	0	3	4	1	2	
	80～84歳	100.0	35.7	35.7	0.0	21.4	7.1	0.0	0.0	
		14	5	5	0	3	1	0	0	
85歳以上	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	2	2	0	0	0	0	0	0		
	無回答	100.0	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	
		6	3	1	0	1	0	1	0	

### (3) 働いていない理由

#### 「就労状況」で「収入を得ていない」と回答した方

「働かなくても生活できるから」が37.5%で最も多く、次いで「働きたいが、健康上の問題があり働ける状態にないから」25.6%、「その他」13.6%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「働かなくても生活できるから」が増加し、「働きたいが、働く場所や機会にめぐまれないから」などが減少しています。



働いていない理由を性別でみると、「働きたいが、働く場所や機会にめぐまれないから」「働きたいが、健康上の問題があり働ける状態にないから」で「男性」が多くなっています。

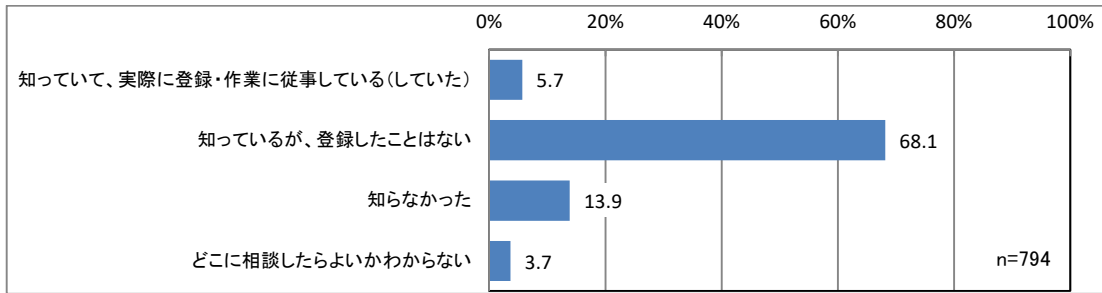
年齢別では、「働きたいが、働く場所や機会にめぐまれないから」で「65～79歳」、「働きたいが、健康上の問題があり働ける状態にないから」で「80～84歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	働きたいが、働く場所や機会にめぐまれないから	働きたいが、健康上の問題があり働ける状態にないから	(要介護者等の世話)があるから	働かなくても生活できるから	その他	無回答	
									割合
性別	男性	100.0	14.3	28.6	4.1	39.8	8.7	4.6	
		196	28	56	8	78	17	9	
	女性	100.0	9.0	23.5	4.5	36.7	16.7	9.6	
		311	28	73	14	114	52	30	
無回答	100.0	4.8	28.6	4.8	28.6	14.3	19.0		
	21	1	6	1	6	3	4		
年齢	65～69歳	100.0	16.0	26.0	9.0	39.0	7.0	3.0	
		100	16	26	9	39	7	3	
	70～74歳	100.0	14.4	25.8	3.1	46.4	5.2	5.2	
		97	14	25	3	45	5	5	
	75～79歳	100.0	14.8	20.7	5.2	35.6	15.6	8.1	
		135	20	28	7	48	21	11	
	80～84歳	100.0	3.5	31.9	2.7	32.7	19.5	9.7	
		113	4	36	3	37	22	11	
	85歳以上	100.0	3.0	21.2	0.0	37.9	22.7	15.2	
		66	2	14	0	25	15	10	
無回答	100.0	5.9	35.3	5.9	23.5	11.8	17.6		
		17	1	6	1	4	2	3	



#### (4) 「高齢者能力活用事業」の認知度 ※複

「知っているが、登録したことはない」が68.1%で最も多く、次いで「知らなかった」13.9%、「知っている、実際に登録・作業に従事している（していた）」5.7%の順となっています。



「高齢者能力活用事業」の認知度を性別で見ると、「知っている、実際に登録・作業に従事している（していた）」「知っているが、登録したことはない」で「男性」が多くなっています。

年齢別では、「知らなかった」で「65～74歳」「85歳以上」が多くなっています。

属性	区分	全体	認知度			
			作業に従事している（していた）	知っているが、登録したことはない	知らなかった	どこに相談したらよいかわからない
性別	男性	100.0	8.0	73.1	13.0	4.3
		323	26	236	42	14
	女性	100.0	4.1	64.6	14.5	3.2
		441	18	285	64	14
無回答	100.0	3.3	66.7	13.3	3.3	
		30	1	20	4	1
年齢	65～69歳	100.0	3.4	71.6	16.7	6.9
		204	7	146	34	14
	70～74歳	100.0	4.5	71.6	16.1	4.5
		155	7	111	25	7
	75～79歳	100.0	6.6	72.5	8.8	2.2
		182	12	132	16	4
	80～84歳	100.0	10.0	63.3	9.3	2.0
		150	15	95	14	3
85歳以上	100.0	5.1	54.4	20.3	0.0	
79	4	43	16	0		
無回答	100.0	0.0	58.3	20.8	4.2	
24	0	14	5	1		

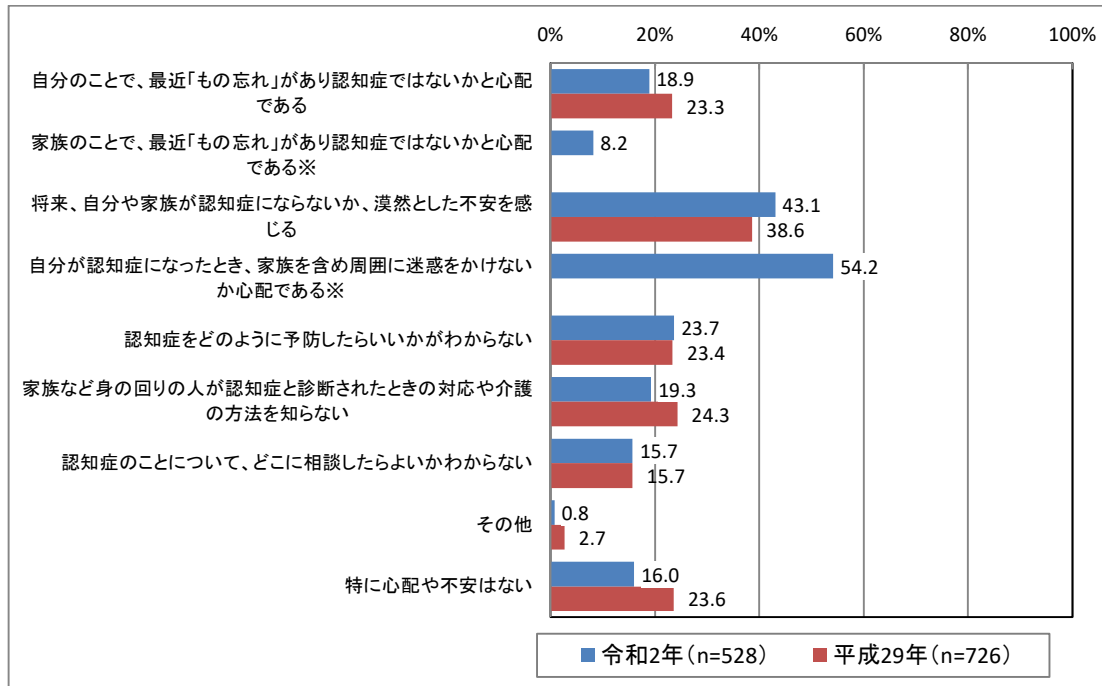
「高齢者能力活用事業」……60歳以上の方の雇用の場を確保するために町が行っている事業

## 6. 認知症について

### (1) 認知症についての不安や心配事

「自分が認知症になったとき、家族を含め周囲に迷惑をかけないか心配である」が54.2%で最も多く、次いで「将来、自分や家族が認知症にならないか、漠然とした不安を感じる」43.1%、「認知症をどのように予防したらいいかわからない」23.7%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「将来、自分や家族が認知症にならないか、漠然とした不安を感じる」などが増加し、「特に心配や不安はない」などが減少しています。



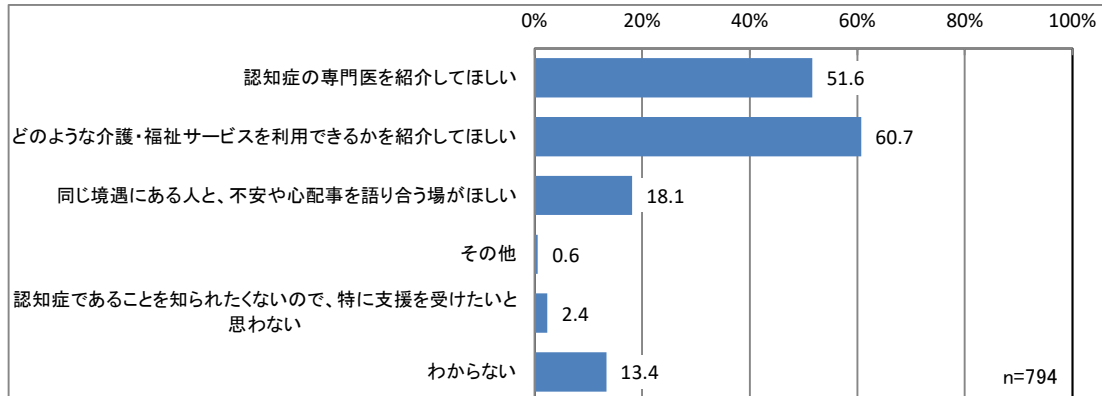
「※」の項目は平成29年調査にはない

認知症についての不安や心配事を性別でみると、ほとんどの項目で「女性」より「男性」の方が多くなっています。

属性	区分	全体	忘	自	忘	家	に	将	き	認	応	知	家	こ	認	特
			れ	分	れ	族	な	来	を	自	知	知	族	こ	知	
性別	男性	100.0	21.7	10.2	48.9	52.3	28.5	24.1	16.4	0.0	17.6					
		323	70	33	158	169	92	78	53	0	57					
	女性	100.0	17.0	6.8	39.2	55.6	19.0	15.6	14.7	1.4	15.0					
		441	75	30	173	245	84	69	65	6	66					
無回答	100.0	16.7	6.7	36.7	53.3	40.0	20.0	23.3	0.0	13.3						
		30	5	2	11	16	12	6	7	0	4					

## (2) 認知症と診断された場合に受けたい支援

「どのような介護・福祉サービスを利用できるかを紹介してほしい」が60.7%で最も多く、次いで「認知症の専門医を紹介してほしい」51.6%、「同じ境遇にある人と、不安や心配事を語り合う場がほしい」18.1%の順となっています。



認知症と診断された場合に受けたい支援を性別でみると、「認知症の専門医を紹介してほしい」で「男性」、「同じ境遇にある人と、不安や心配事を語り合う場がほしい」で「女性」が多くなっています。

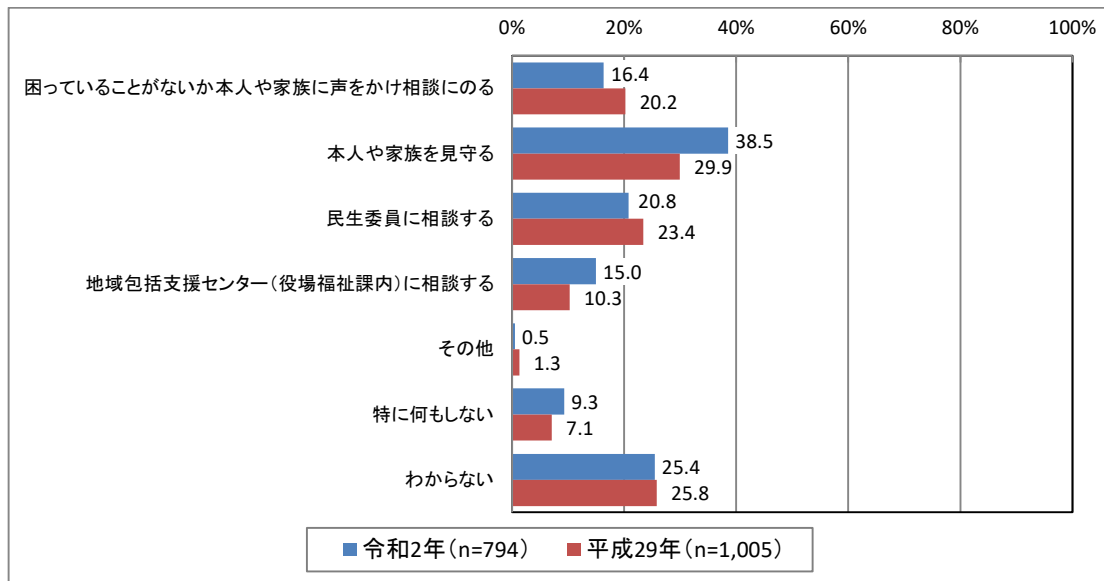
年齢別では、「どのような介護・福祉サービスを利用できるかを紹介してほしい」で年齢が低くなるほど多くなっています。

属性	区分	全体	認知症の専門医を紹介してほしい	どのような介護・福祉サービスを利用できるかを紹介してほしい	や同じ境遇にある人と、不安や心配事を語り合う場がほしい	その他	認知症であることを知られたくないので、特に支援を受けたいと思わない	わからない
性別	男性	100.0	55.1	60.7	15.8	0.6	3.7	14.9
		323	178	196	51	2	12	48
	女性	100.0	49.9	61.5	19.7	0.7	1.6	11.6
		441	220	271	87	3	7	51
	無回答	100.0	40.0	50.0	20.0	0.0	0.0	23.3
		30	12	15	6	0	0	7
年齢	65～69歳	100.0	57.4	69.6	16.7	0.5	1.0	14.2
		204	117	142	34	1	2	29
	70～74歳	100.0	47.7	61.9	14.2	0.6	2.6	18.1
		155	74	96	22	1	4	28
	75～79歳	100.0	50.5	58.2	23.1	0.5	2.7	11.5
		182	92	106	42	1	5	21
	80～84歳	100.0	48.0	56.7	18.0	0.7	4.0	10.0
		150	72	85	27	1	6	15
85歳以上	100.0	57.0	48.1	17.7	1.3	2.5	8.9	
	79	45	38	14	1	2	7	
	無回答	100.0	41.7	62.5	20.8	0.0	0.0	25.0
		24	10	15	5	0	0	6

### (3) 認知症と思われる人が近くにいた場合の接し方

「本人や家族を見守る」が38.5%で最も多く、次いで「わからない」25.4%、「民生委員に相談する」20.8%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「本人や家族を見守る」などが増加し、「困っていることがないか本人や家族に声をかけ相談にのる」などが減少しています。



認知症と思われる人が近くにいた場合の接し方を性別でみると、「特に何もしない」で「男性」、「本人や家族を見守る」で「女性」が多くなっています。

年齢別では、「困っていることがないか本人や家族に声をかけ相談にのる」で「70～74歳」、「本人や家族を見守る」で「65～69歳」「75～79歳」が多くなっています。

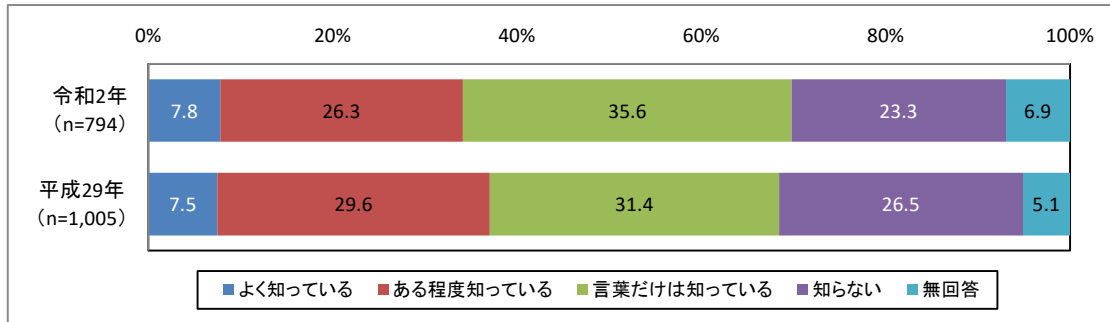
属性	区分	全体	困っていることがないか本人や家族に声をかけ相談にのる	本人や家族を見守る	民生委員に相談する	地域包括支援センター(役場福祉課内)に相談する	その他	特に何もしない	わからない
性別	男性	100.0 323	16.7 54	35.3 114	20.7 67	15.8 51	1.2 4	12.4 40	29.1 94
	女性	100.0 441	16.1 71	42.0 185	20.2 89	14.5 64	0.0 0	7.3 32	22.9 101
	無回答	100.0 30	16.7 5	23.3 7	30.0 9	13.3 4	0.0 0	6.7 2	23.3 7
	合計	100.0	16.7	35.3	20.7	15.8	1.2	12.4	29.1
年齢	65～69歳	100.0 204	13.7 28	44.6 91	15.7 32	15.2 31	0.5 1	8.8 18	30.4 62
	70～74歳	100.0 155	20.0 31	29.7 46	20.6 32	11.0 17	0.0 0	8.4 13	34.2 53
	75～79歳	100.0 182	18.7 34	42.3 77	23.1 42	16.5 30	1.1 2	8.8 16	19.2 35
	80～84歳	100.0 150	15.3 23	36.0 54	20.0 30	20.0 30	0.7 1	11.3 17	21.3 32
	85歳以上	100.0 79	12.7 10	41.8 33	26.6 21	11.4 9	0.0 0	8.9 7	20.3 16
	無回答	100.0 24	16.7 4	20.8 5	33.3 8	8.3 2	0.0 0	12.5 3	16.7 4
	合計	100.0	16.7	35.3	20.7	15.8	1.2	12.4	29.1
	合計	100.0	16.7	35.3	20.7	15.8	1.2	12.4	29.1

## 7. 成年後見制度の利用促進について

### (1) 成年後見制度の認知度

「言葉だけは知っている」が35.6%で最も多く、次いで「ある程度知っている」26.3%、「知らない」23.3%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「言葉だけは知っている」などが増加し、「ある程度知っている」「知らない」が減少しています。



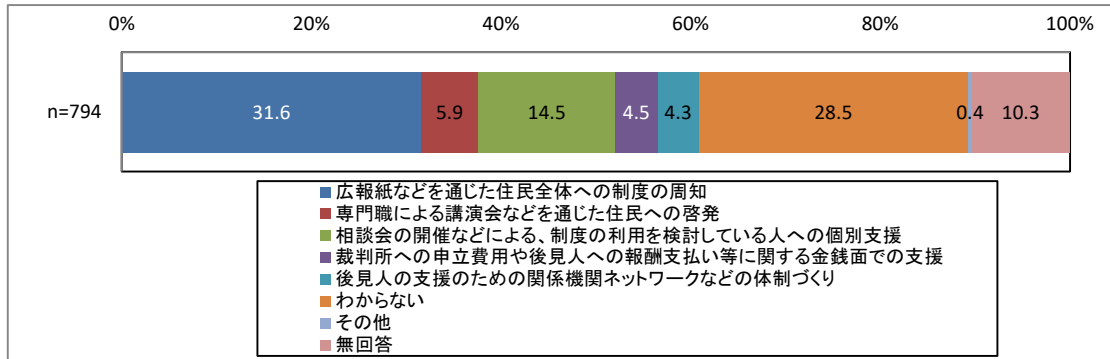
成年後見制度の認知度を性別で見ると、「よく知っている」「ある程度知っている」で「男性」、「言葉だけは知っている」「知らない」で「女性」が多くなっています。

年齢別では、「言葉だけは知っている」で「65～69歳」、「知らない」で「85歳以上」が多くなっています。

属性	区分	全体	認知度				
			よく知っている	ある程度知っている	言葉だけは知っている	知らない	無回答
性別	男性	100.0	9.0	29.7	35.0	21.1	5.3
		323	29	96	113	68	17
	女性	100.0	7.3	23.8	37.0	24.5	7.5
		441	32	105	163	108	33
	無回答	100.0	3.3	26.7	23.3	30.0	16.7
		30	1	8	7	9	5
年齢	65～69歳	100.0	9.3	25.0	41.2	21.1	3.4
		204	19	51	84	43	7
	70～74歳	100.0	3.9	33.5	37.4	21.3	3.9
		155	6	52	58	33	6
	75～79歳	100.0	11.0	20.9	39.0	19.2	9.9
		182	20	38	71	35	18
	80～84歳	100.0	5.3	29.3	30.7	26.0	8.7
		150	8	44	46	39	13
85歳以上	100.0	11.4	24.1	24.1	31.6	8.9	
	79	9	19	19	25	7	
	無回答	100.0	0.0	20.8	20.8	41.7	16.7
		24	0	5	5	10	4

## (2) 成年後見制度の利用促進を行う場合、最も効果的だと思う取り組み

「広報紙などを通じた住民全体への制度の周知」が31.6%で最も多く、次いで「わからない」28.5%、「相談会の開催などによる、制度の利用を検討している人への個別支援」14.5%の順となっています。



成年後見制度の認知度を性別でみると、「広報紙などを通じた住民全体への制度の周知」で「男性」、「相談会の開催などによる、制度の利用を検討している人への個別支援」で「女性」が多くなっています。

年齢別では、「広報紙などを通じた住民全体への制度の周知」で「70～74歳」、「相談会の開催などによる、制度の利用を検討している人への個別支援」で「65～69歳」が多くなっています。

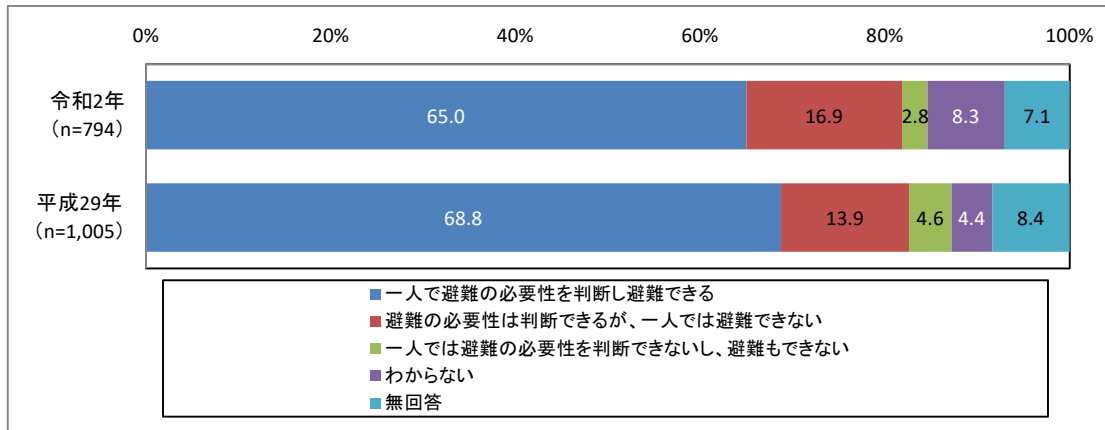
属性	区分	全体	広報紙などを通じた住民全体への制度の周知	専門職による講演会などを通じた住民への啓発	相談会の開催などによる、制度の利用を検討している人への個別支援	裁判所への申立費用や後見人への報酬支払い等に関する金銭面での支援	後見人の支援のための関係機関ネットワークなどの体制づくり	わからない	その他	無回答
			35.0	8.0	17.3	4.0	4.3	23.2	0.3	7.7
性別	男性	100.0	35.0	8.0	17.3	4.0	4.3	23.2	0.3	7.7
		323	113	26	56	13	14	75	1	25
	女性	100.0	29.9	4.5	12.9	4.5	3.6	32.2	0.5	11.8
		441	132	20	57	20	16	142	2	52
	無回答	100.0	20.0	3.3	6.7	10.0	13.3	30.0	0.0	16.7
		30	6	1	2	3	4	9	0	5
年齢	65～69歳	100.0	29.4	5.9	25.5	4.9	5.4	25.5	0.0	3.4
		204	60	12	52	10	11	52	0	7
	70～74歳	100.0	38.1	5.8	15.5	5.8	2.6	25.8	1.9	4.5
		155	59	9	24	9	4	40	3	7
	75～79歳	100.0	33.0	6.0	8.2	3.8	1.6	29.7	0.0	17.6
		182	60	11	15	7	3	54	0	32
	80～84歳	100.0	26.0	4.7	10.0	2.7	8.0	33.3	0.0	15.3
		150	39	7	15	4	12	50	0	23
85歳以上	100.0	35.4	7.6	8.9	6.3	2.5	26.6	0.0	12.7	
	79	28	6	7	5	2	21	0	10	
	無回答	100.0	20.8	8.3	8.3	4.2	8.3	37.5	0.0	12.5
		24	5	2	2	1	2	9	0	3

## 8. 安全・安心な暮らしについて

### (1) 災害時の一人での避難

「一人で避難の必要性を判断し避難できる」が65.0%で最も多く、次いで「避難の必要性は判断できるが、一人では避難できない」16.9%、「わからない」8.3%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「わからない」「避難の必要性は判断できるが、一人では避難できない」が増加し、「一人で避難の必要性を判断し避難できる」などが減少しています。



災害時の一人での避難を性別でみると、「一人で避難の必要性を判断し避難できる」で「男性」、「避難の必要性は判断できるが、一人では避難できない」「一人では避難の必要性を判断できないし、避難もできない」で「女性」が多くなっています。

年齢別では、「一人で避難の必要性を判断し避難できる」で年齢が低くなるほど多く、「避難の必要性は判断できるが、一人では避難できない」で年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、「一人では避難の必要性を判断できないし、避難もできない」で「85歳以上」が多くなっています。

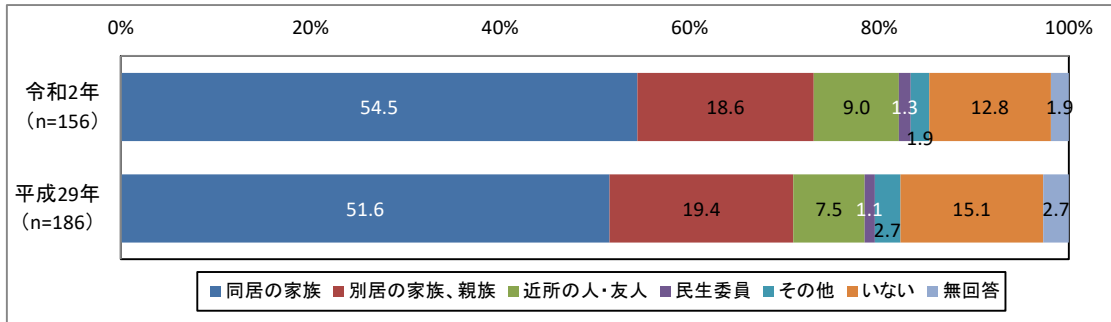
属性	区分	全体	一人で避難の必要性を判断できる	が、一人では避難の必要性を判断できない	断一人では避難の必要性を判断できない	わからない	無回答
総数	-	100.0	65.0	16.9	2.8	8.3	7.1
		794	516	134	22	66	56
性別	男性	100.0	78.3	9.9	0.6	5.9	5.3
		323	253	32	2	19	17
	女性	100.0	55.1	23.1	4.3	9.8	7.7
		441	243	102	19	43	34
	無回答	100.0	66.7	0.0	3.3	13.3	16.7
		30	20	0	1	4	5
年齢	65～69歳	100.0	77.5	9.3	2.0	7.8	3.4
		204	158	19	4	16	7
	70～74歳	100.0	75.5	12.3	1.9	7.1	3.2
		155	117	19	3	11	5
	75～79歳	100.0	65.4	18.7	0.5	6.0	9.3
		182	119	34	1	11	17
	80～84歳	100.0	48.7	28.7	2.7	10.0	10.0
		150	73	43	4	15	15
85歳以上	100.0	41.8	24.1	11.4	12.7	10.1	
	79	33	19	9	10	8	
	無回答	100.0	66.7	0.0	4.2	12.5	16.7
		24	16	0	1	3	4

## (2) 災害時に助けを頼める相手

「災害時の一人での避難」で「避難の必要性は判断できるが、一人では避難できない」「一人では避難の必要性を判断できないし、避難もできない」と回答した方

「同居の家族」が54.5%で最も多く、次いで「別居の家族、親族」18.6%、「いない」12.8%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「同居の家族」などが増加し、「いない」「別居の家族、親族」などが減少しています。



災害時に助けを頼める相手を性別でみると、「同居の家族」で「男性」、「別居の家族、親族」「近所の人・友人」で「女性」が多くなっています。

年齢別では、「同居の家族」で「70～74歳」、「別居の家族、親族」で「85歳以上」が多くなっています。

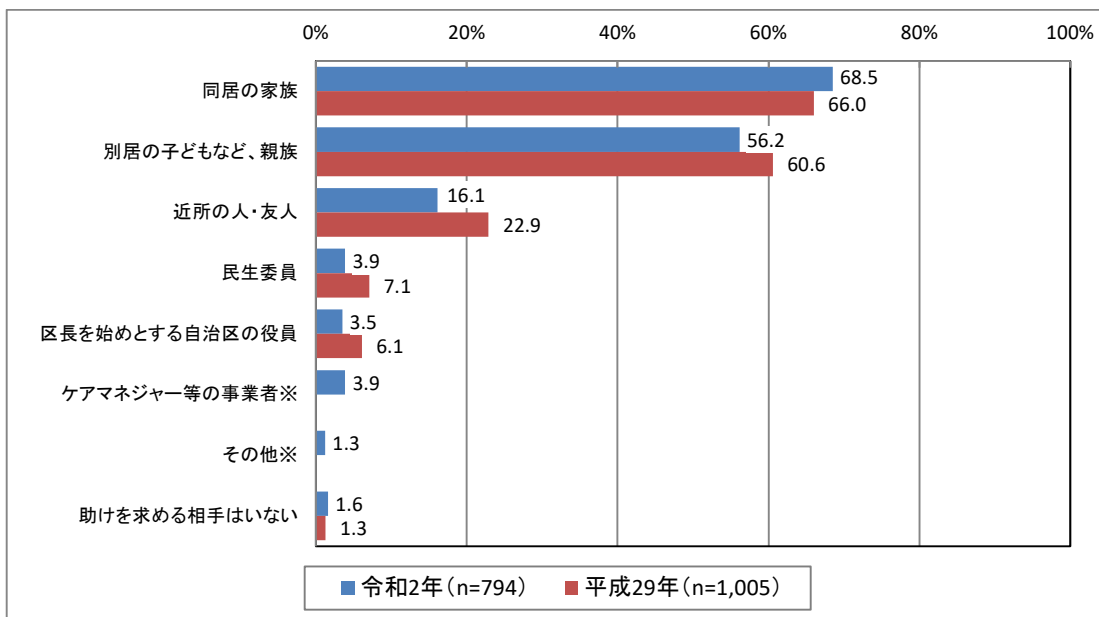
属性	区分	全体	別居の家族、親族						
			同居の家族	別居の家族、親族	近所の人・友人	民生委員	その他	いない	無回答
性別	男性	100.0	61.8	14.7	5.9	2.9	0.0	11.8	2.9
		34	21	5	2	1	0	4	1
	女性	100.0	52.9	19.0	9.9	0.8	2.5	13.2	1.7
		121	64	23	12	1	3	16	2
	無回答	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		1	0	1	0	0	0	0	0
年齢	65～69歳	100.0	60.9	17.4	0.0	0.0	0.0	17.4	4.3
		23	14	4	0	0	0	4	1
	70～74歳	100.0	77.3	13.6	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
		22	17	3	0	0	0	2	0
	75～79歳	100.0	48.6	14.3	14.3	5.7	0.0	17.1	0.0
		35	17	5	5	2	0	6	0
	80～84歳	100.0	51.1	19.1	10.6	0.0	2.1	14.9	2.1
	47	24	9	5	0	1	7	1	
85歳以上	100.0	46.4	25.0	14.3	0.0	7.1	3.6	3.6	
	28	13	7	4	0	2	1	1	
	無回答	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
		1	0	1	0	0	0	0	0



### (3) 緊急時に助けを求める相手

「同居の家族」が68.5%で最も多く、次いで「別居の子どもなど、親族」56.2%、「近所の人・友人」16.1%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「同居の家族」が増加し、「近所の人・友人」などが減少しています。



「※」の項目は平成29年調査にはない

緊急時に助けを求める相手を性別で見ると、「同居の家族」で「男性」、「別居の子どもなど、親族」「近所の人・友人」で「女性」が多くなっています。

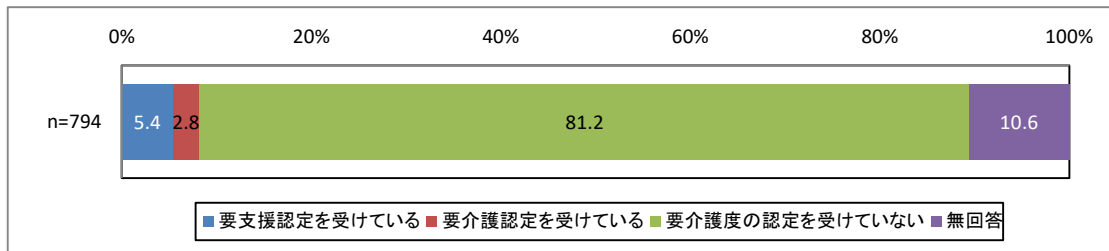
年齢別では、「同居の家族」で「65～69歳」、「近所の人・友人」で「85歳以上」が多くなっています。

属性	区分	全体	助けを求める相手							
			同居の家族	別居の子どもなど、親族	近所の人・友人	民生委員	区長を始めとする自治区の役員	ケアマネジャー等の事業者	その他	助けを求める相手はいない
性別	男性	100.0	76.2	52.3	13.9	5.9	5.0	2.5	1.2	2.2
		323	246	169	45	19	16	8	4	7
	女性	100.0	63.5	60.1	17.5	2.3	2.3	5.2	1.4	1.1
		441	280	265	77	10	10	23	6	5
無回答	100.0	60.0	40.0	20.0	6.7	6.7	0.0	0.0	3.3	
	30	18	12	6	2	2	0	0	1	
年齢	65～69歳	100.0	79.9	55.9	12.7	1.5	3.4	1.0	0.5	2.9
		204	163	114	26	3	7	2	1	6
	70～74歳	100.0	72.9	54.8	9.0	0.6	1.9	1.9	1.9	2.6
		155	113	85	14	1	3	3	3	4
	75～79歳	100.0	69.8	57.1	20.9	4.9	3.3	4.4	1.1	1.6
		182	127	104	38	9	6	8	2	3
	80～84歳	100.0	59.3	60.7	18.7	6.0	2.7	5.3	0.7	0.0
		150	89	91	28	9	4	8	1	0
85歳以上	100.0	46.8	51.9	22.8	8.9	8.9	12.7	3.8	0.0	
	79	37	41	18	7	7	10	3	0	
無回答	100.0	62.5	45.8	16.7	8.3	4.2	0.0	0.0	0.0	
		24	15	11	4	2	1	0	0	0

## 9. 介護について

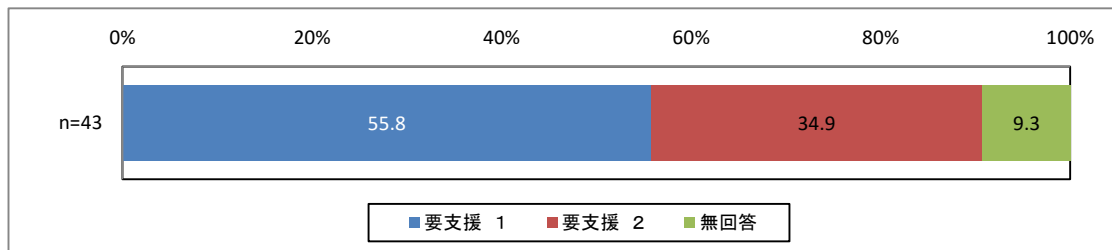
### (1) 要介護度の認定状況

「要介護度の認定を受けていない」が81.2%で最も多く、次いで「要支援認定を受けている」5.4%、「要介護認定を受けている」2.8%の順となっています。



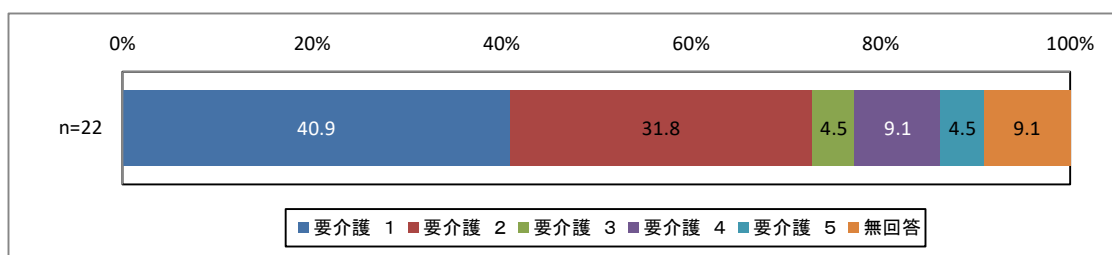
### (2) 要支援認定の内訳

「要介護度の認定状況」で「要支援認定を受けている」と回答した方「要支援 1」が55.8%、「要支援 2」が34.9%となっています。



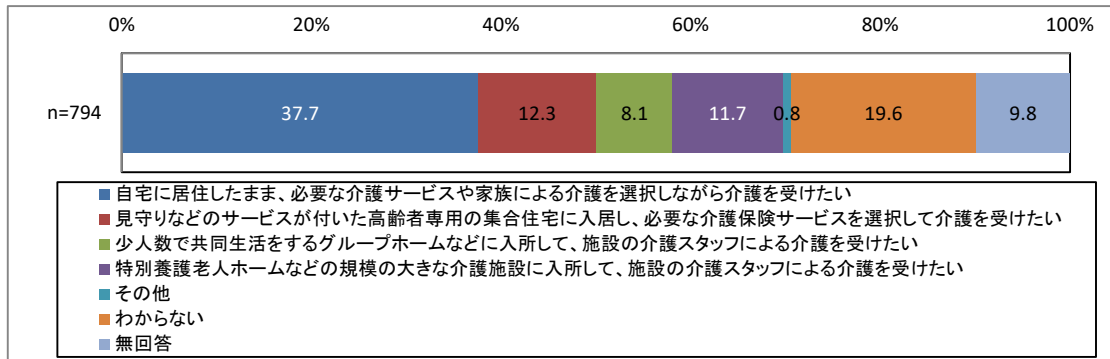
### (3) 要介護認定の内訳

「要介護度の認定状況」で「要介護認定を受けている」と回答した方「要介護 1」が40.9%で最も多く、次いで「要介護 2」31.8%、「要介護 4」9.1%の順となっています。



#### (4) 介護を受ける場合に受けてほしい介護

「自宅に居住したまま、必要な介護サービスや家族による介護を選択しながら介護を受けたい」が37.7%で最も多く、次いで「わからない」19.6%、「見守りなどのサービスが付いた高齢者専用の集合住宅に入居し、必要な介護保険サービスを選択して介護を受けたい」12.3%の順となっています。



介護を受ける場合に受けてほしい介護を性別でみると、「自宅に居住したまま、介護を受けたい」「特別養護老人ホームなどの規模の大きな介護施設に入所して、介護を受けたい」で「男性」、「高齢者専用の集合住宅に入居し、介護を受けたい」「グループホームなどに入所して、介護を受けたい」で「女性」が多くなっています。

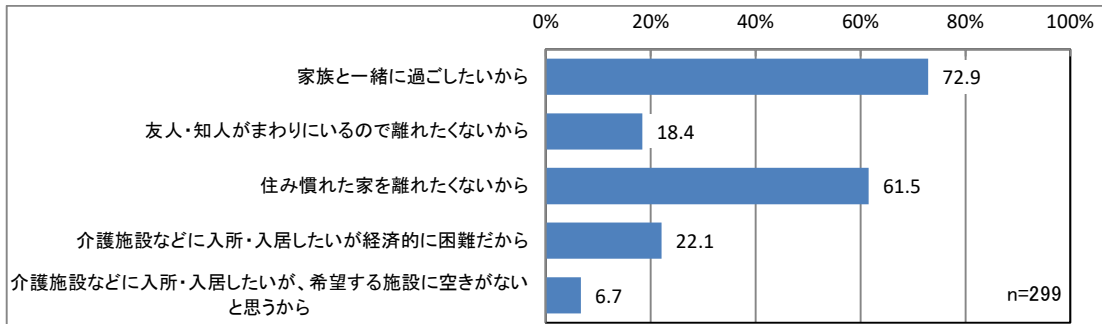
年齢別では、「自宅に居住したまま、介護を受けたい」で「65～69歳」、「高齢者専用の集合住宅に入居し、介護を受けたい」で「70～74歳」、「特別養護老人ホームなどの規模の大きな介護施設に入所して、介護を受けたい」で「80歳以上」が多くなっています。

属性	区分	全体	必要な介護サービスを選択しながら受けたい	見守りなどのサービスが付いた高齢者専用の集合住宅に入居し、必要な介護保険サービスを選択して受けたい	少人数で共同生活をするグループホームなどに入所して、施設の介護スタッフによる介護を受けたい	特別養護老人ホームなどの規模の大きな介護施設に入所して、施設の介護スタッフによる介護を受けたい	その他	わからない	無回答
			割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)
性別	男性	100.0	40.9	10.5	5.0	14.9	0.3	20.1	8.4
		323	132	34	16	48	1	65	27
	女性	100.0	36.3	13.4	10.0	9.1	1.1	19.5	10.7
		441	160	59	44	40	5	86	47
	無回答	100.0	23.3	16.7	13.3	16.7	0.0	16.7	13.3
		30	7	5	4	5	0	5	4
年齢	65～69歳	100.0	45.1	14.7	7.4	7.8	0.5	22.1	2.5
		204	92	30	15	16	1	45	5
	70～74歳	100.0	34.2	17.4	9.7	11.0	0.6	21.9	5.2
		155	53	27	15	17	1	34	8
	75～79歳	100.0	37.9	8.2	8.2	11.5	1.1	19.2	13.7
		182	69	15	15	21	2	35	25
	80～84歳	100.0	33.3	7.3	9.3	15.3	1.3	17.3	16.0
		150	50	11	14	23	2	26	24
85歳以上	100.0	36.7	12.7	1.3	15.2	0.0	17.7	16.5	
	79	29	10	1	12	0	14	13	
	無回答	100.0	25.0	20.8	16.7	16.7	0.0	8.3	12.5
		24	6	5	4	4	0	2	3

(5) 自宅で介護を受けたいと思う理由

「介護を受ける場合に受けたい介護」で「自宅に居住したまま、必要な介護サービスや家族による介護を選択しながら介護を受けたい」と回答した方

「家族と一緒に過ごしたいから」が72.9%で最も多く、次いで「住み慣れた家を離れたくないから」61.5%、「介護施設などに入所・入居したいが経済的に困難だから」22.1%の順となっています。



自宅で介護を受けたいと思う理由を性別で見ると、「家族と一緒に過ごしたいから」で「男性」、「友人・知人がまわりにいるので離れたくないから」で「女性」が多くなっています。

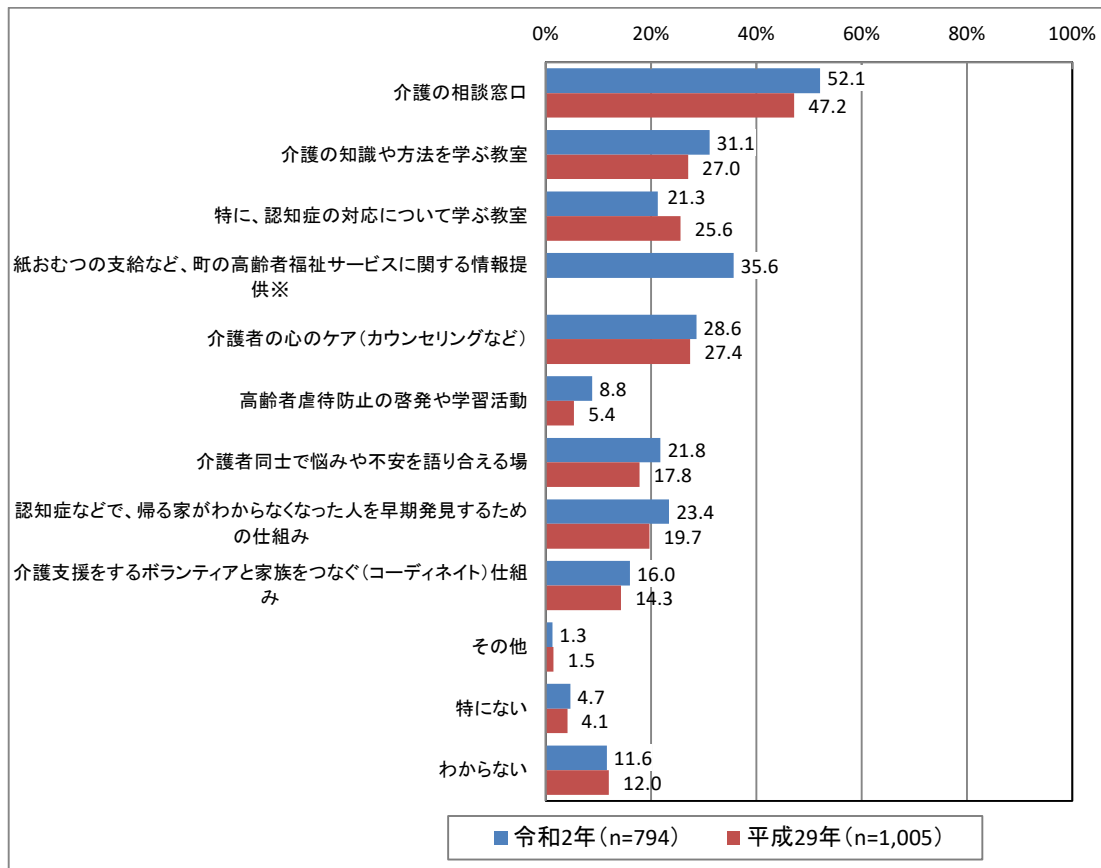
年齢別では、「家族と一緒に過ごしたいから」で「65～69歳」、「友人・知人がまわりにいるので離れたくないから」で「75～79歳」、「住み慣れた家を離れたくないから」で「70～74歳」が多くなっています。

属性	区分	全体	理由				
			家族と一緒に過ごしたいから	友人・知人がまわりにいるので離れたくないから	住み慣れた家を離れたくないから	介護施設などに入所・入居したいが経済的に困難だから	介護施設などに入所・入居したいが、希望する施設に空きがないと思うから
性別	男性	100.0	80.3	15.9	62.9	23.5	1.5
		132	106	21	83	31	2
	女性	100.0	66.3	20.6	61.9	21.3	10.6
		160	106	33	99	34	17
	無回答	100.0	85.7	14.3	28.6	14.3	14.3
		7	6	1	2	1	1
年齢	65～69歳	100.0	81.5	12.0	59.8	23.9	5.4
		92	75	11	55	22	5
	70～74歳	100.0	60.4	7.5	71.7	24.5	15.1
		53	32	4	38	13	8
	75～79歳	100.0	73.9	29.0	53.6	23.2	4.3
		69	51	20	37	16	3
	80～84歳	100.0	68.0	22.0	68.0	18.0	2.0
		50	34	11	34	9	1
85歳以上	100.0	69.0	27.6	62.1	17.2	6.9	
	29	20	8	18	5	2	
	無回答	100.0	100.0	16.7	33.3	16.7	16.7
		6	6	1	2	1	1

### (6) 高齢者を介護する家族に必要な支援

「介護の相談窓口」が52.1%で最も多く、次いで「紙おむつの支給など、町の高齢者福祉サービスに関する情報提供」35.6%、「介護の知識や方法を学ぶ教室」31.1%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「介護の相談窓口」などが増加し、「特に、認知症の対応について学ぶ教室」などが減少しています。



「※」の項目は平成29年調査にはない

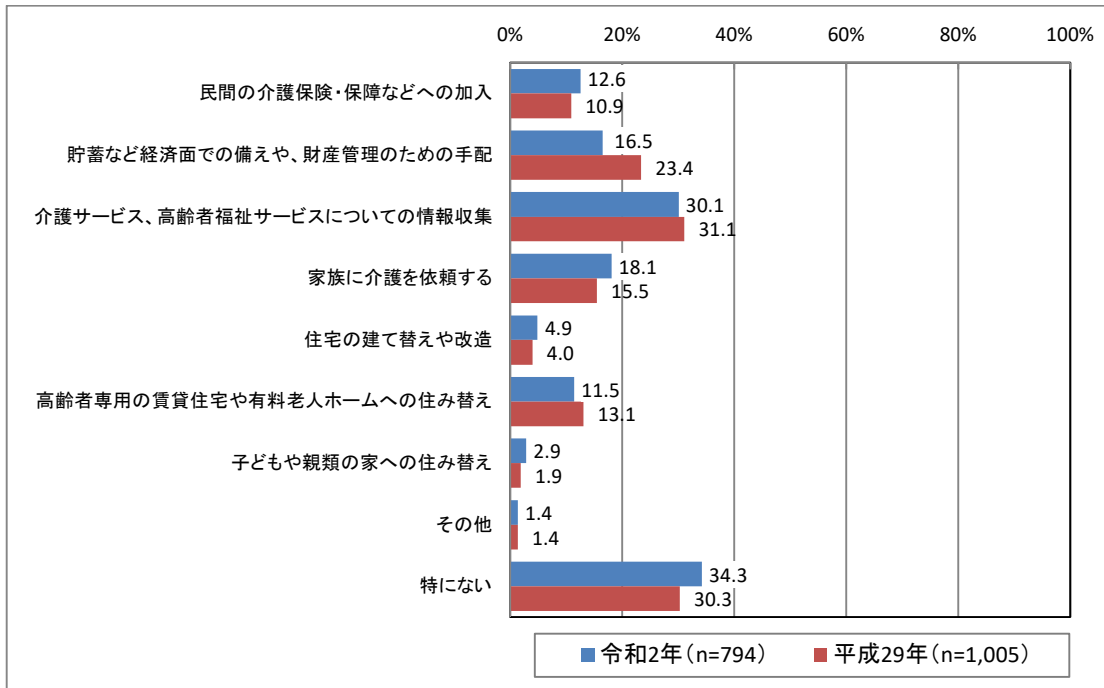
高齢者を介護する家族に必要な支援を性別でみると、「特に、認知症の対応について学ぶ教室」で「男性」、「紙おむつの支給など、町の高齢者福祉サービスに関する情報提供」で「女性」が多くなっています。

属性	区分	全体	介護の相談窓口	介護の知識や方法を学ぶ教室	特に、認知症の対応について学ぶ教室	紙おむつの支給など、町の高齢者福祉サービスに関する情報提供	介護者の心のケア(カウンセリングなど)	高齢者虐待防止の啓発や学習活動	介護者同士で悩みや不安を語り合える場	認知症などで、帰る家がわからなくなった人を早期発見するための仕組み	介護支援をするボランティアと家族をつなぐ(コーディネート)仕組み	その他	特にない	わからない
性別	男性	100.0	53.9	34.1	26.0	28.8	28.5	10.8	18.6	22.0	16.7	1.5	4.6	11.8
		323	174	110	84	93	92	35	60	71	54	5	15	38
	女性	100.0	51.0	28.6	17.9	42.2	28.6	7.9	23.6	24.7	15.6	0.9	5.0	11.1
		441	225	126	79	186	126	35	104	109	69	4	22	49
無回答	100.0	50.0	36.7	20.0	13.3	30.0	0.0	30.0	20.0	13.3	3.3	0.0	16.7	
	30	15	11	6	4	9	0	9	6	4	1	0	5	

### (7) 要介護状態になった場合への備え

「特にない」が34.3%で最も多く、次いで「介護サービス、高齢者福祉サービスについての情報収集」30.1%、「家族に介護を依頼する」18.1%の順となっています。

平成29年調査と比較すると「特にない」「家族に介護を依頼する」などが増加し、「貯蓄など経済面での備えや、財産管理のための手配」などが減少しています。



要介護状態になった場合への備えを性別でみると、「介護サービス、高齢者福祉サービスについての情報収集」で「男性」、「家族に介護を依頼する」で「女性」が多くなっています。

年齢別では、「民間の介護保険・保障などへの加入」「貯蓄など経済面での備えや、財産管理のための手配」で「65～69歳」、が多くなっています。

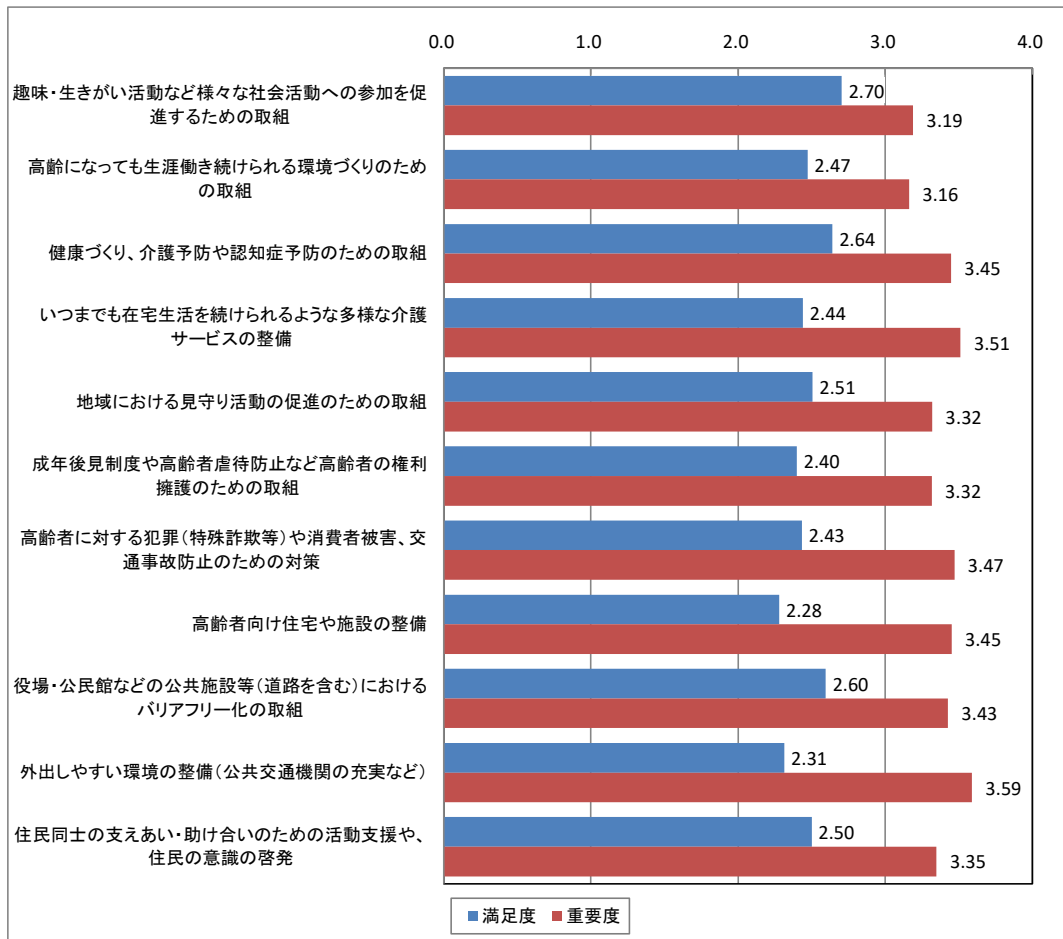
属性	区分	全体	民間の介護保険・保障などへの加入	貯蓄など経済面での備えや、財産管理のための手配	介護サービスについての情報収集	家族に介護を依頼する	住宅の建て替えや改造	高齢者専用の賃貸住宅や有料老人ホームへの住み替え	子どもや親類の家への住み替え	その他	特にない
性別	男性	100.0	13.6	14.9	26.0	22.9	5.0	11.8	1.9	0.9	40.6
		323	44	48	84	74	16	38	6	3	131
	女性	100.0	11.3	17.7	33.6	15.0	5.0	10.4	3.6	1.8	30.4
		441	50	78	148	66	22	46	16	8	134
	無回答	100.0	20.0	16.7	23.3	13.3	3.3	23.3	3.3	0.0	23.3
		30	6	5	7	4	1	7	1	0	7
年齢	65～69歳	100.0	18.1	21.1	26.5	15.2	5.4	9.3	1.5	0.5	41.7
		204	37	43	54	31	11	19	3	1	85
	70～74歳	100.0	6.5	14.8	28.4	11.0	3.9	9.0	2.6	2.6	41.3
		155	10	23	44	17	6	14	4	4	64
	75～79歳	100.0	12.1	15.4	33.5	20.9	6.0	13.2	3.3	1.6	31.9
		182	22	28	61	38	11	24	6	3	58
	80～84歳	100.0	11.3	14.7	33.3	22.7	5.3	13.3	3.3	0.7	26.0
		150	17	22	50	34	8	20	5	1	39
85歳以上	100.0	11.4	11.4	31.6	24.1	2.5	11.4	5.1	2.5	25.3	
	79	9	9	25	19	2	9	4	2	20	
	無回答	100.0	20.8	25.0	20.8	20.8	4.2	20.8	4.2	0.0	25.0
		24	5	6	5	5	1	5	1	0	6

## 10. 高齢社会対策への総合的な取り組み等について

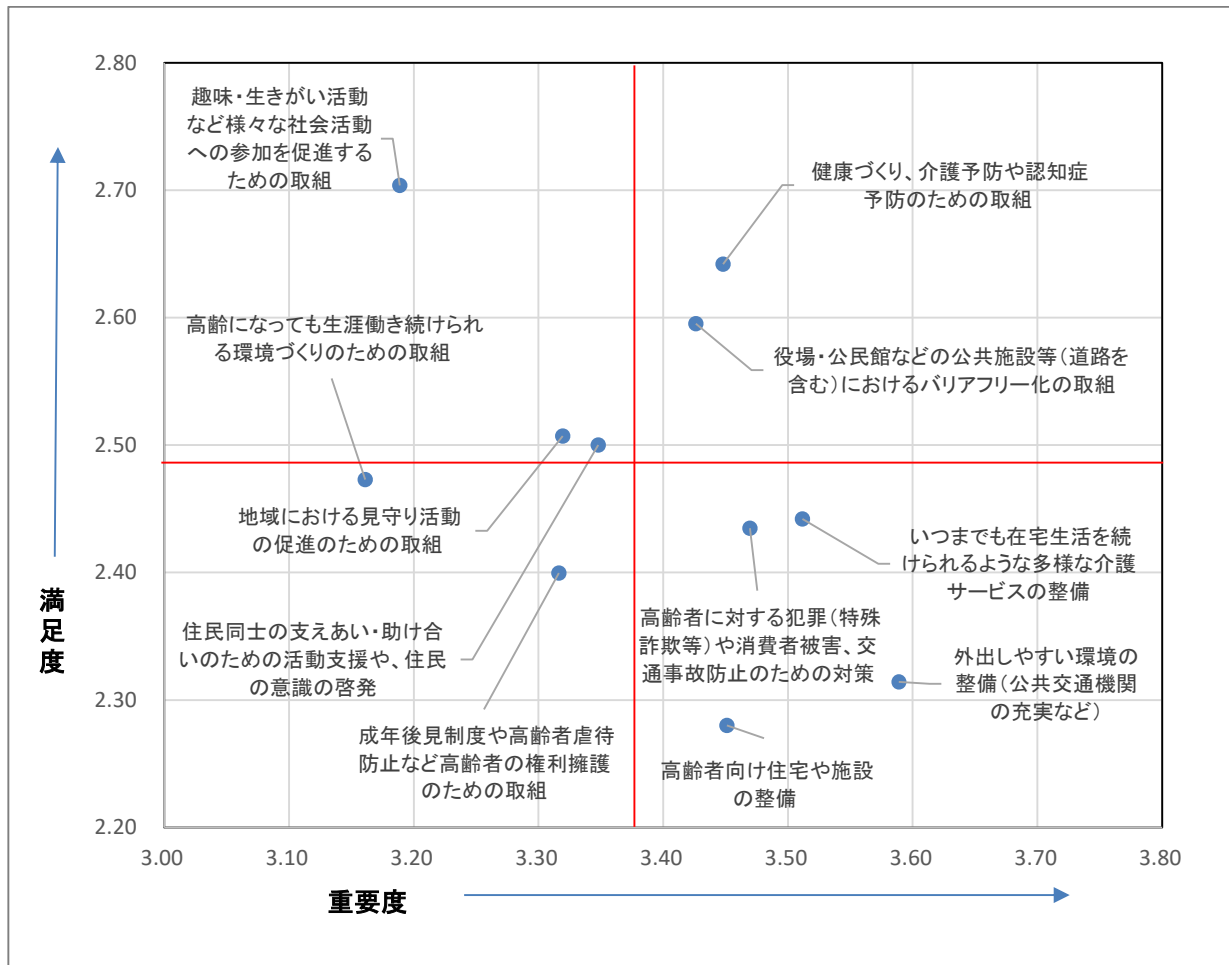
### (1) 高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らしていける社会づくりに向けた施策の満足度と重要度

高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らしていける社会づくりに向けた施策の満足度と重要度を、満足度では「満足=4点」「やや満足=3点」「やや不満=2点」「不満=1点」とし、重要度では「重要=4点」「やや重要=3点」「あまり重要ではない=2点」「重要ではない=1点」として点数化し、項目ごとに比較しました。

最も重要度が高い取り組みは、「外出しやすい環境の整備（公共交通機関の充実など）」次いで、「いつまでも在宅生活を続けられるような多様な介護サービスの整備」、「高齢者に対する犯罪（特殊詐欺等）や消費者被害、交通事故防止のための対策」の順となっており、満足度が高い取り組みとしては「趣味・生きがい活動など様々な社会活動への参加を促進するための取組」、「健康づくり、介護予防や認知症予防のための取組」、「役場・公民館などの公共施設等（道路を含む）におけるバリアフリー化の取組」の順となっています。



また、満足度と重要度の相関をみると、重要度は高いものの満足度が低い施策としては、「外出しやすい環境の整備（公共交通機関の充実など）」「高齢者向け住宅や施設の整備」「いつまでも在宅生活を続けられるような多様な介護サービスの整備」「高齢者に対する犯罪（特殊詐欺等）や消費者被害、交通事故防止のための対策」などがあがっています。





## Ⅲ 調査結果から見る現状と課題



## 1. 回答者の属性

アンケート調査の回答者をみると、「男性」より「女性」が多くなっており、年齢では「65～69歳」が最も多く全体の4分の1以上を占めます。

居住地区においては「山鹿小学校区」が多く、全体の3分の1以上を占めます。

世帯の状況は「夫婦二人暮らし世帯」が最も多く4割以上を占めますが、「一人暮らし世帯」の方が全体の2割強となっています。

今後さらに、高齢者の一人暮らし世帯や高齢者のみの夫婦世帯が増加していくことが見込まれますので、地域を含めた支援体制の整備が必要です。

## 2. 日常生活の様子について

日常生活での困りごとでは、「特にない」が6割以上と最も多くなっていますが、「自分や家族の病気や介護のこと」という回答も一定数みられます。また、「炊事、洗濯、掃除、ごみの分別やごみ出しなど身の回りのこと」「外出時の移動手段のこと」では、高齢になるほど困っているとした結果がみられます。

日常生活で困ったときに支えてくれる人では、「同居の家族」の割合が64.9%と最も多く、前回調査より2.4ポイント増加しています。

将来の生活で不安に感じることでは、「自分の健康や病気、また、それらにより将来介護を必要とする状態になること」の割合が67.4%と最も多くなっており、ほとんどの項目で「女性」より「男性」の方が不安に感じる割合が多くなっています。

現在の困り事や将来の不安において、「自分や家族の病気、介護のこと」に関する回答が多くみられることから、健康維持や介護予防のための取組みの充実が必要です。

## 3. 健康・介護予防について

健康のために心がけていることについては、「食事に気をつける」と「休養や睡眠を十分にとる」が半数程度と多くなっています。前回調査と比較すると「散歩や運動など体を動かす」が14.2ポイント、「趣味や学習活動などの楽しみを持つ」が14.4ポイントと積極的な取組みが増加しています。

健康について知りたいことでは、「認知症の予防について」や「がんや生活習慣病（高血圧や糖尿病など）にならないための工夫について」が多くなっており、ほとんどの項目において前回調査より増加しており、健康に関する意識の上昇がみられます。また、要介護状態にならないためにやってほしい教室・事業では、「運動・転倒予防に関すること」「認知症の予防・支援に関すること」などが多くなっていることから、各種事業などの参加しやすい取組みや広報などが重要になってきます。

治療困難と診断された場合に希望する療養場所では、「できるだけ自宅で過ごして、最後は医療機関に入院したい」が半数以上と最も多くなっていますが、「最後まで自宅で療養したい」とした方も1割弱ですがみられます。

## 4. 社会参加・生きがいについて

近所付き合いの程度では、前回調査と比較して「親しく付き合っている」が減少し、「あいさつをする程度の人はいる」が増加しており、近所づきあいの希薄化がみられます。

特に「70歳以上」の高齢者の「親しく付き合っている」の割合が多いことから、「70歳未満」の比較的若い世代の近所づきあいが大切になってきます。また、居住地区内のつながりに関しては、「つながりをとても感じる」が24.1%と前回調査と比較して3.4ポイント増加しており、高齢になるほどその割合が多くなっていることから、こちらも比較的若い世代につながりを感じてもらえるような環境づくりが必要です。

通いの場への定期的な参加状況では、「参加していない」が半数以上と最も多くなっており、「男性」と比較して「女性」の方が「参加している」割合が多くなっています。

体操教室や地域交流サロン活動への参加意向では、「参加してもしなくても、どちらでもよい」が最も多く、次いで「参加したくない」の順となっており、参加したくない理由としては「人との交流が苦手だから」「内容に興味湧かないから」「健康状態が良くないから」などの回答が多くなっています。

ボランティア活動への参加状況では、「参加したものはなし」が4割以上と最も多く、参加したことがない理由としては、「健康・体力に自信がないから」が「特に理由はない」の次に多くなっています。

地域の助け合いやボランティア活動などに参加するために必要な町の取り組みでは、「ボランティア活動などに関する情報をもっと提供する」が3割以上と最も多くなっていることから、情報提供の充実が必要です。

今後やってみたいことでは、「健康づくりや運動など体を動かす活動」や「趣味の活動」などが多くなっていることから、気軽に「運動や趣味の活動」ができる環境の整備が望まれます。

## 5. 就労について

就労状況では、前回調査と比較して「収入を得ている」が1.1ポイント増加し25.1%となっています。性別では「男性」の方が「収入を得ている」割合が多く、年齢別では年齢が低くなるほど「就労している」割合が多くなっています。

働いている理由としては、「生活費や将来への蓄えのため」が半数以上を占め、「経験や能力を活かしたいから」が前回調査から2.5ポイント増加し11.6%となっています。一方、働いていない理由としては、「働かなくても生活できるから」が4割近くと最も多くなっていますが、「働きたいが、働く場所や機会にめぐまれないから」も1割強みられ、性別では「男性」、年齢別では「65～79歳」の比較的若い世代に多くみられます。働きたいと考える高齢者が、これまでの経験や能力を生かし働ける環境の整備が必要です。

60歳以上の方の雇用の場を確保するために町が行っている「高齢者能力活用事業」の認知度は、「知っているが、登録したことはない」が68.1%で最も多くなっていますが、「知っていて、実際に登録・作業に従事している（していた）」は5.7%と非常に少なくなっています。登録の有無に関係なく「知っている」とした回答は「女性」より「男性」の方が多く、「知らない」とした回答は「65～74歳」の比較的若い世代に多くなっていることから、女性や比較的若い世代を中心に事業に関する広報が必要です。

## 6. 認知症について

認知症についての不安や心配事では、「自分が認知症になったとき、家族を含め周囲に迷惑をかけないか心配である」が54.2%、「将来、自分や家族が認知症にならないか、漠然とした不安を感じる」43.1%と認知性に関する不安が多く、全体的に「女性」と比較して「男性」に認知症に関する不安が多くなっている現状がみられます。

認知症と診断された場合に受きたい支援では、「どのような介護・福祉サービスを利用できるかを紹介してほしい」が60.7%、「認知症の専門医を紹介してほしい」が51.6%と多くなっており、認知症に対応するための情報提供が望まれていることから、福祉サービスや適切な医療に関する情報提供が必要です。

## 7. 成年後見制度の利用促進について

成年後見制度に関しては、「言葉だけは知っている」が35.6%と最も多く、「よく知っている」は7.8%と非常に少なくなっており、成年後見制度の利用促進を行う場合、最も効果的だと思う取組みでも、「広報紙などを通じた住民全体への制度の周知」が31.6%と最も多くなっていることから、今後更なる広報・啓発を図っていく必要があります。

## 8. 安全・安心な暮らしについて

災害時の一人での避難に関して、「避難の必要性を判断し避難できる」が65.0%と多くなっていますが、「避難の必要性は判断できるが、一人では避難できない」16.9%、「一人では避難の必要性を判断できないし、避難もできない」も2.8%と「避難できない」と回答した方が相当数いらっしゃいます。「避難できない」は「女性」に多く、年齢が高くなるほど多くなるとした結果になりました。

このような現状から、避難場所を含めた災害に対する情報の更なる提供を行い、災害に対する理解を深めていただくことが急務であると考えられます。

また、災害時に助けを頼める相手及び緊急時に助けを求める相手としては、ともに「同居の家族」が最も多く、次いで「別居の家族、親族」とした結果になりました。

## 9. 介護について

要介護度の認定状況は、「要介護度の認定を受けていない」が8割以上で最も多く、次いで「要支援認定を受けている」、「要介護認定を受けている」の順となりました。

介護を受ける場合に受けてほしい介護では、「自宅に居住したまま、必要な介護サービスや家族による介護を選択しながら介護を受けたい」が4割弱で最も多くなっており、自宅で介護を受けたいと思う理由としては、「家族と一緒に過ごしたいから」が最も多く、次いで「住み慣れた家を離れたくないから」の順となっています。

高齢者を介護する家族に必要な支援では「介護の相談窓口」が52.1%で最も多くなっており、前回調査と比較して4.9ポイント増加していることから、相談しやすい窓口の充実が必要です。

## 10. 高齢社会対策への総合的な取り組み等について

高齢者が住み慣れた場所で安心して暮らしていける社会づくりに向けた施策として、最も重要度が高い取り組みは、「外出しやすい環境の整備（公共交通機関の充実など）」次いで、「いつまでも在宅生活を続けられるような多様な介護サービスの整備」、「高齢者に対する犯罪（特殊詐欺等）や消費者被害、交通事故防止のための対策」の順となっており、満足度が高い取り組みとしては「趣味・生きがい活動など様々な社会活動への参加を促進するための取組」、「健康づくり、介護予防や認知症予防のための取組」、「役場・公民館などの公共施設等（道路を含む）におけるバリアフリー化の取組」の順となっています。

また、重要度は高いものの満足度が低い施策としては、「災害時の避難行動要支援者対策の充実」「高齢者への支援の充実」「防犯・防災対策の充実」などがあがっていることから、今後、町として重点的に取り組まなければいけない施策だと考えられます。